

リサーチと相互作用の触媒とし
てのロケーション：

要約版

3研究室 サム ストッカー s131 5903

The location as a catalyst for research and interaction.

翻訳者
Nozawa Rina

Judd



Melting Collins

to show magazines

Body of work
the end of her life

She Wrote

She Made Works

Agnes Martin

EBC

Mentioned it in a small conversation

was it important to her

She Developed her line of thought constant

the boundary between art and life and the encounter

Art as thinking process

Her symbols as providing a base for the full understanding of her works

Hilda af Klint



looking outside of the line

線の外側を見る

is asking for a quote taking the piss

Moving away from painting

outside

relationships

find the abstract mindmaps

Abstraction

I am one of them

this line was not a development rather she worked to understand her own goals and her own standing for her this = that



How does this help me

How does this relate to me

What interests me

How is it

Good

Barlow



Abstraction

show

show

show

show

Various small notes and fragments on the left edge of the page, including 'an (Toren)', 'Photo-L', 'A sense of the ambiguous end point', 'indirect', 'indirect', 'find the abstract mindmaps', 'Abstraction', 'I am one of them', 'show', 'show', 'show', 'show'.

Various small notes and fragments in the middle-left area, including 'the revelation of the first', 'A sense of the ambiguous end point', 'indirect', 'indirect', 'find the abstract mindmaps', 'Abstraction', 'I am one of them'.

Various small notes and fragments in the middle-right area, including 'the revelation of the first', 'A sense of the ambiguous end point', 'indirect', 'indirect', 'find the abstract mindmaps', 'Abstraction', 'I am one of them'.

Various small notes and fragments in the bottom-middle area, including 'this line was not a development rather she worked to understand her own goals and her own standing for her this = that'.

Various small notes and fragments in the bottom-right area, including 'this line was not a development rather she worked to understand her own goals and her own standing for her this = that'.

Various small notes and fragments in the right edge area, including 'How does this help me', 'How does this relate to me', 'What interests me', 'How is it'.

Various small notes and fragments in the far right area, including 'How does this help me', 'How does this relate to me', 'What interests me', 'How is it'.

Thoughts
The space
Kiefer
gestures of balance
related materials
IT wasn't exactly
some where
some where
not

Using materials with po
Bezo Materials
Mr. Gerdans
His Story
changes

Mr Gerdans
Haindo
Kawamata
The process
of working together

Materials
R Morris
Materials
Interplay
links to Hara
links to Kiefer

Materials
Cinchen
Molin
Fran
association

Deller
getting
close
to the bone
Smithson
Reverse
Ruins

Pedro Cabrita Reis

mandrian
the development
to a point
purity
of white
I have known
intensity

Erwin
personal
historical
narrative
out
one that
links
us

Vegayn
of the
North
Sea
Arata
Isozaki
ORUAN
D'Alton

Interplay
links to Hara
links to Kiefer
Vito
Acconci

Daniel
Buren
The
theater
Artist

Manfred
Perace

Site
plan

Painting
extensions
of it

Thoughts

Temporary
Work

No
Colour
Code

Patric
Keille
Robison
in Ruins
Mike Nelson
work that is flow
in space - in the
world

Not
Just
looking
like
Architecture
Architecture
as a space
where something
is going to
happen

Site
plan



目次

要旨

5. 代表的な作品

6. 博士課程審査展

参考文献

私は文脈に沿って作業する。しかし、文脈とは無関係のところ、つまり文脈に沿うと同時に反して自分のために制作を行う。ある場所の中で制作を行うが、自分自身と言葉との一般的な関係性において、独自の作品のためにマクロの状況下においても作業する。

(Orozco 1998: 99 [翻訳者訳])

要旨

タイトルにあるように、ロケーションは私の制作活動における主要な役割を果たしてきた。ロケーションを扱う際には、4つの段階がある。まず、場所に対して直感的に反応する。ここで直感的というのは、個人的な興味、継続的な学び、過去の経験、憧れという4つの要素で構成される。2段階目のレスポンスは、リサーチの過程だ。歴史的、文化的、そして、環境的な特徴など、場所についての情報を調べる。展示のロケーション周辺を歩き回ること、地域の人々と会話をすることも含まれる。3段階目は、素材だ。常に、周辺地域で素材を入手しようと試みる。これには地域の人々からもらった中古素材や、地域の店舗で購入したものが含まれる。最後の段階は、現実だ。1つのギャラリー空間で可能なことが、別の空間では不可能なことがある。空間と交渉した成果が、私の作品だ。

博士課程審査展に向け、私は人々に自分の芸術実践を理解してもらうために役立つ作品を制作することにした。本論文ではその過程を論じるが、断片的で抽象的な表現方法を採用する。引用や論理的な説明文、そして自分の感情をそれぞれで異なるフォントを用いて表記する。というのも、私は失読症を抱えているため思考回路や情報処理の仕方が健常者とは異なるようだからだ。このようなアプローチを取ることで、読者が独自の視点で本論文を理解する余地も残している。この点は、物理的な作品にも当てはまる。鑑賞者独自の視点で作品を鑑賞し、自分なりの印象やナラティブを生み出してもらいたいと考える。また、本論文を理解する助けとなるよう、本論文の全体要素を包括するマインドマップ、および各章のマインドマップも添付した。マインドマップの作成は、情報整理に役立つ。同時に、これは私の考え方を提示する最適な方法だ。

まず第1章では、人生における重要な出来事について触れ、サイトに加えて個人的な経験が私の実践におけるカタリスト（触媒）となってきたこと、またその出来事が作品にもたらした影響を説明する。

第2章の主要なトピックは、ロケーションだ。私自身にとってのロケーションとサイトスペシフィックの意味を定義し、それが一般的なサイトスペシフィックな概念とどのように異なるかを説明する。アンゼルム・キーファーの例を取り上げる。

第3章では、リサーチの手法や、マーク・ロスコ、アミカム・トレン、およびマイク・ネルソンなど影響を受けたアーティストたちを紹介する。過去3年間に渡るリサーチの過程で撮影した写真も含める。

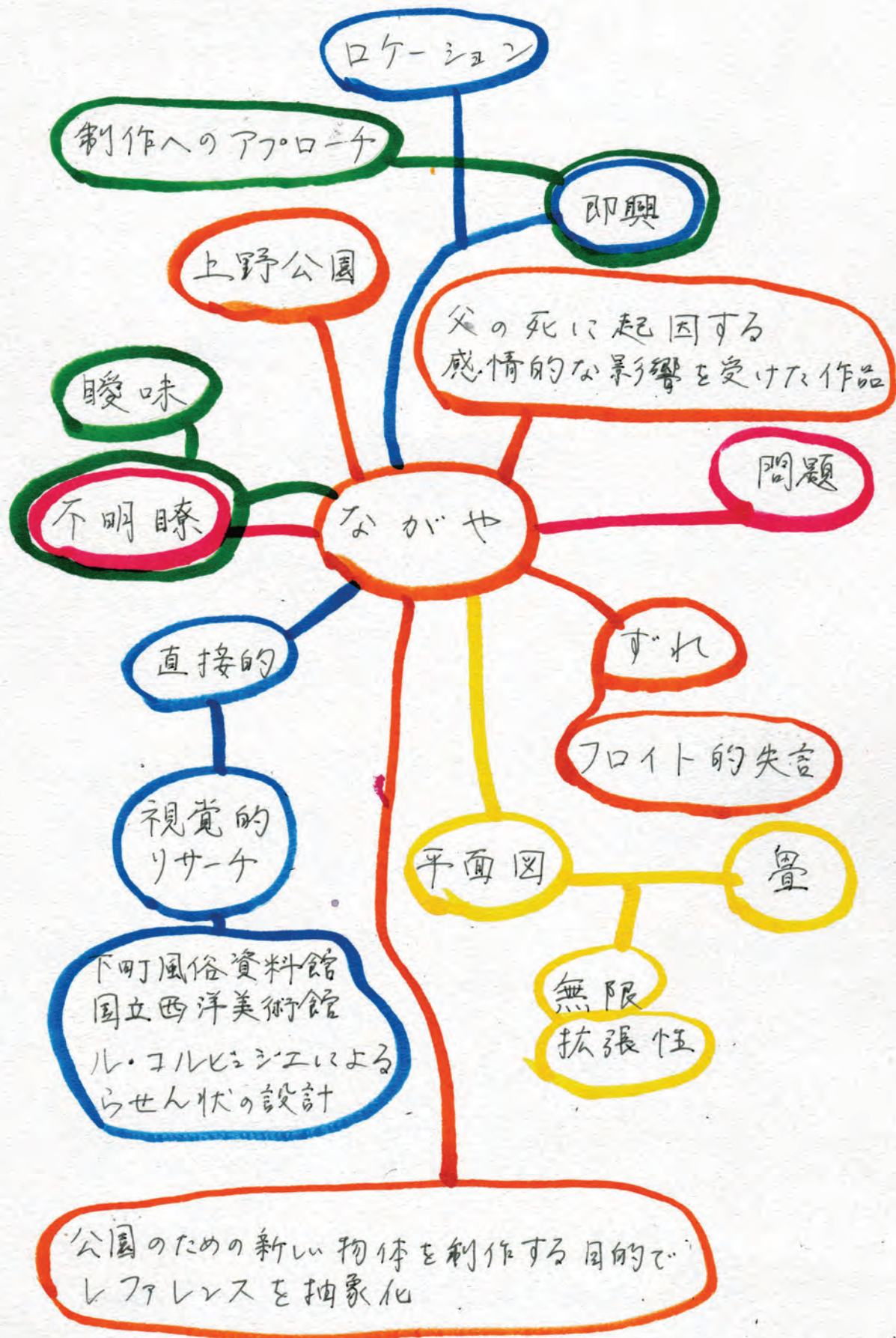
第4章では、素材について論じる。ヨーゼフ・ボイス、アンゼルム・キーファー、ロバート・ラウシェンバーグ、ヘレン・マーティン、クレイ・カッター、ドリス・サルセド、ペドロ・カブリタ・レイスの使用した素材に言及し、日常的な素材の使用を探る。

第5章は、主に博士課程に在籍中に制作した代表的な作品を紹介する。これらのプロジェクトが進化し、審査展に出展する作品へとつながる。「Under the Surface」の展示に向けた作業中、直近の作品における主要な特徴の一つである六角形にたどり着いた様子（時間や形、モチーフをつなげること）を提示する。

最終章は、博士審査展に出展する作品に焦点を当てる。修了作品展と同様に、上野公園が作品制作のカタリスト（触媒）となった。前回は建物に焦点を当てたが、今回は人に注目した。上野公園の居住者であるホームレスと野生動物を取り上げ、ホームレスの問題に対する潜在的な解決策として家または部屋と仮定する。ホームレスが野生動物のように他人に気付かれずに快適な生活を送れる可能性を含む4つの状況を特定した。大学を上野公園のモデルと捉え、学内に16点の作品を設置することで空間に介入した。この介入は、マインドマップに類似したねずみの巣穴の図に基づいている。更に、上野公園からモチーフを選択して主要なインスタレーションに適用した様子や、複数のインスタレーション制作の基盤となったタイムラインなどを説明する。また、会期中に公開制作を行った際の調査やキーワードなどにも言及する。

当然のことながら、どのような伝記シリーズにも芸術家は登場する。しかし、それを美術史の主要な要素にすることは、一人の旅行者がある国の複数の鉄道路線における体験について議論するようなものだ。鉄道を正確に説明するためには、人や状況を無視しなければならない。というのも、鉄道を継続させる要素は、乗客や機能性ではなく、線路自体だからだ。

(Kubler 1962: 6[翻訳者訳])



ロケーションとして家

変化中のものは、異なる速度で変化する。

過去の記憶を再整理はうとすること。

将来を考慮すること。

ロケーションに基づいたレスポンス

記念物

フォトブック

祖父の家

カプリシオ的

主観的

記憶へのレスポンス

空虚

その空間

78 WENSLEYDALE AVENUE

孤獨の表現

アンセルム・キーファーからの影響

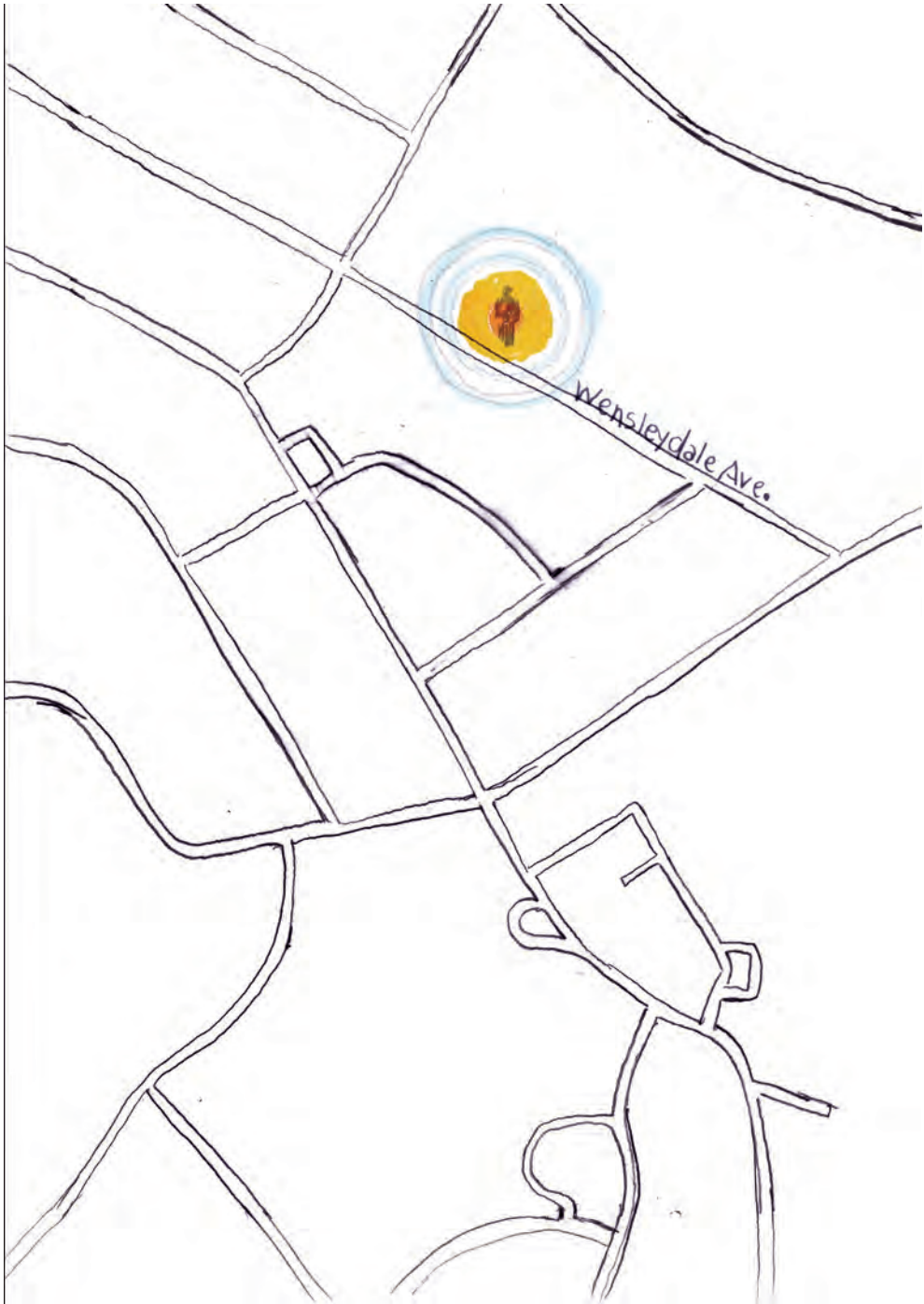
ひどく主観的
不透明

変化中の状態

素材
迷惑な郵便物
家庭用ペレキ
スヌーカーのキュー

目的は、美しいものを作ることではなかった

草 ぼり
便の服
無料の新聞
すべりのワール



サイトスペシフィックなアイデア

それが始まったことに彼らが気づく前に開始させる。これは私たちとその他の事柄との関係において、私たちの存在を示す一例にしかすぎない。

歴史は、プロジェクトを開始するために十分なインスピレーションを与える。また、歴史は現在の経験から切り離されていない。地方行政の下す決定や地域における出来事次第で状況が変化する。

時期に基づいて選ばれた、無関係の反応

ロケーションにおいて重要な事柄は何か？

特定の順番通りでない。

物体

ごみ

歴史

子供たち

個人

動物

コミュニティ

建築

ストーリー

反文化 記念物

科学

信念

政治

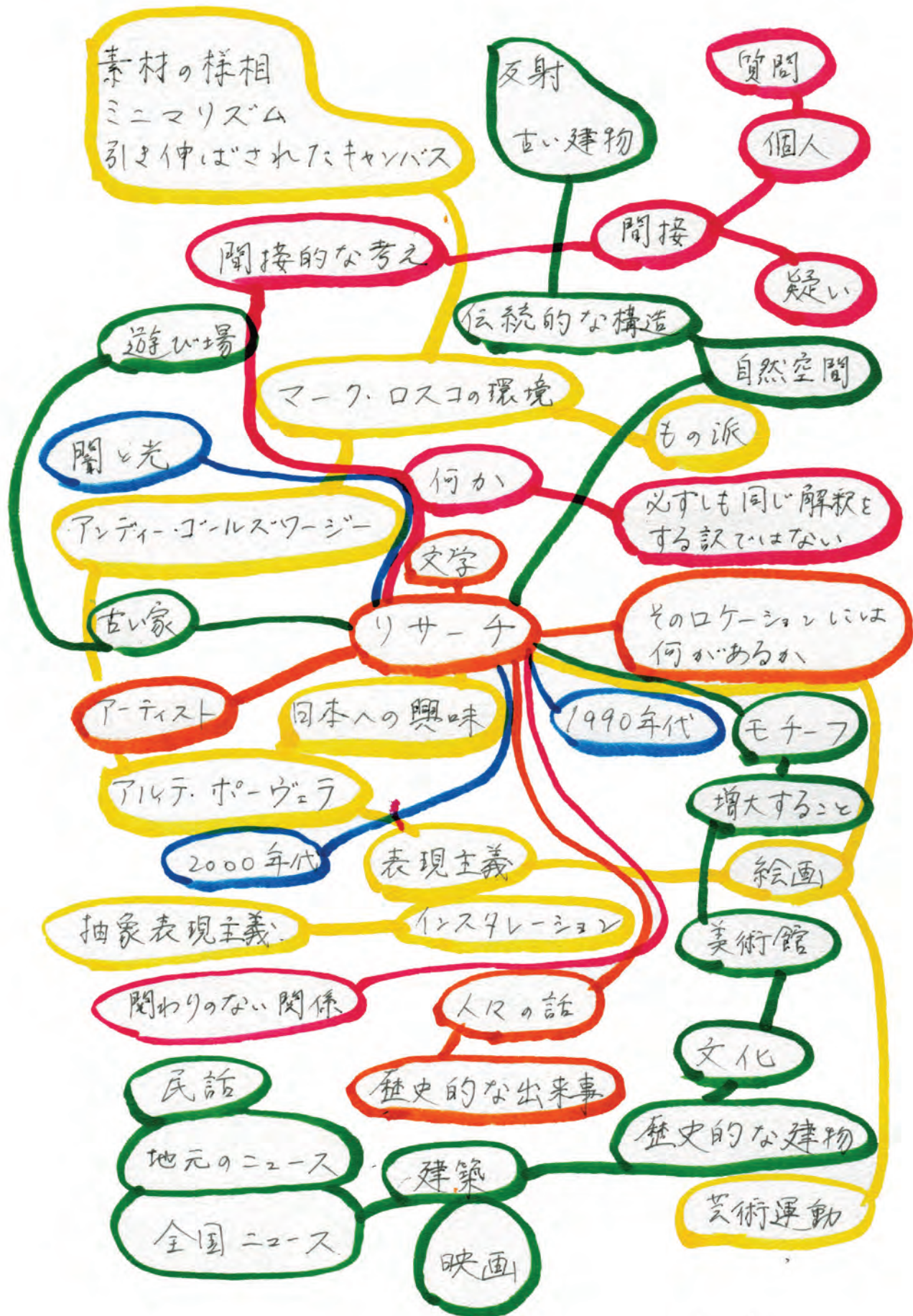
展覧会のために選択された地域がそのまま取り上げられた。変更も修正もされない。そこにあるものへの介入。ある一つの場所の表現が別の場所に移動され、別の空間との新しい遭遇、新しい空間関係性を形作る。

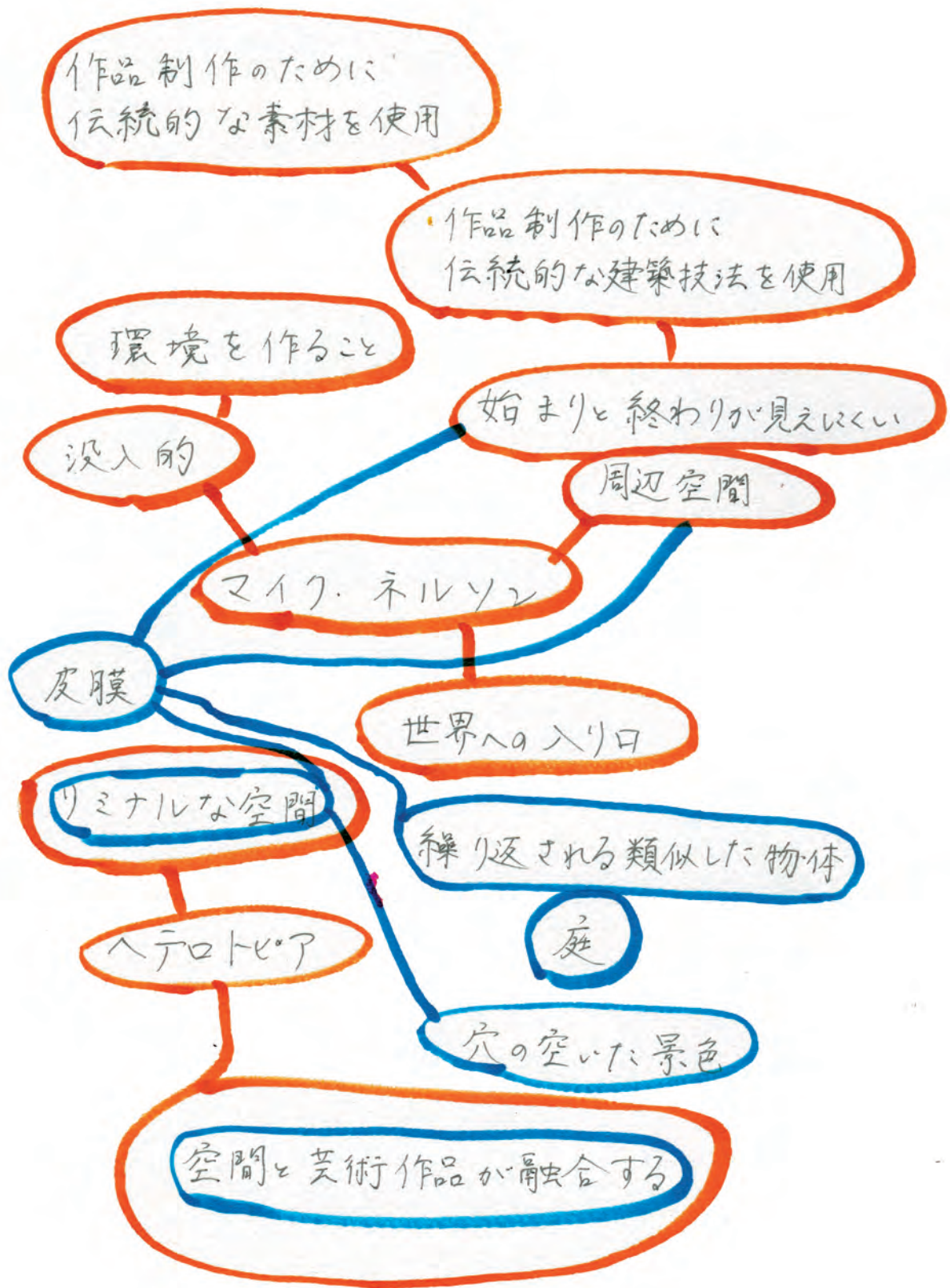
大量のレファレンスを複雑にすることが、予想外の作品の制作につながる。新しい形を作る断片のパーツで組み立てられた構造。その過程に関する文章を読もうとする人以外を除き、誰にも気づかれないままの要素を集約した物体。

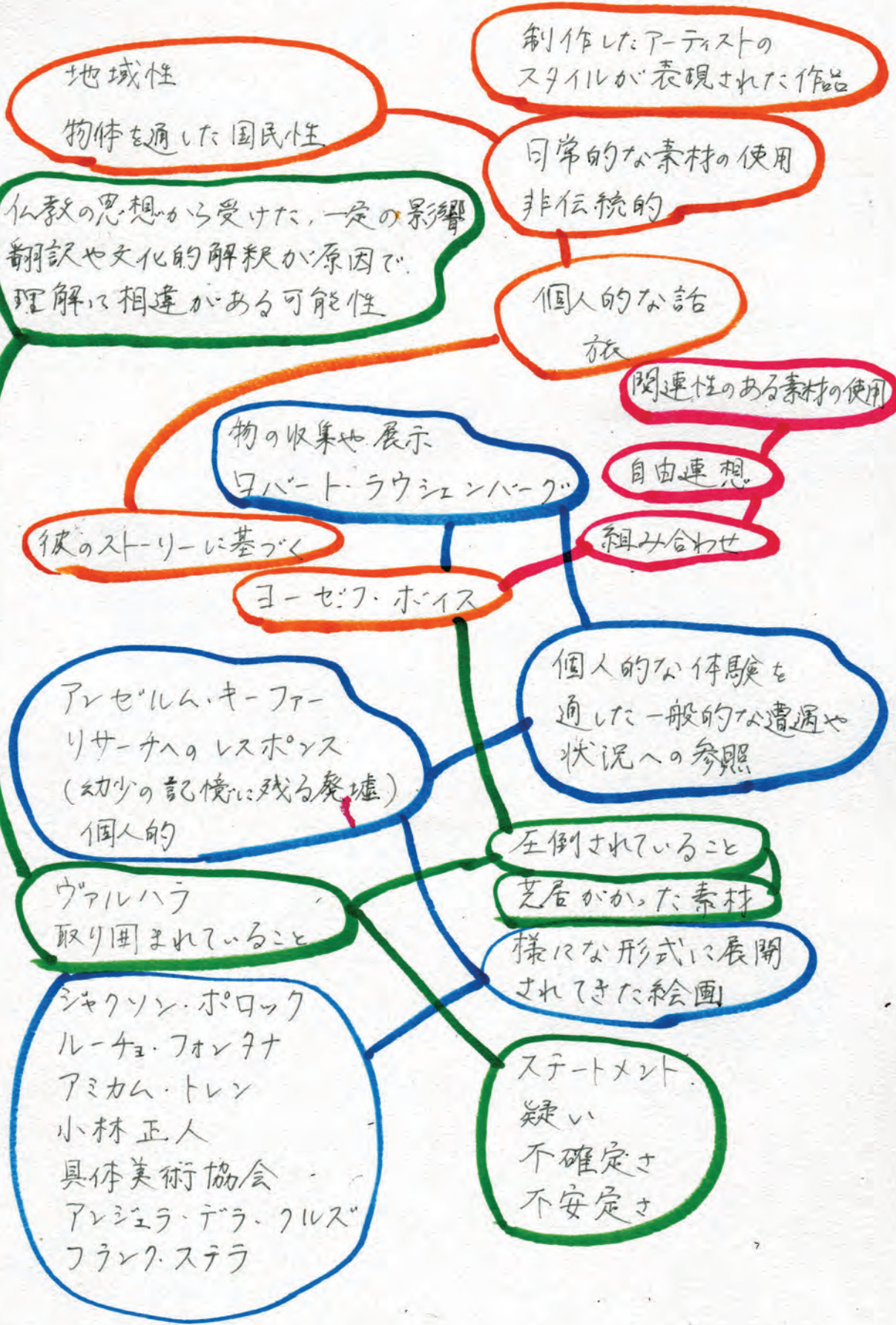
そのサイト（場所）は、展覧会の主要エリアの1つになる。主な市場は白い空間だが、サイトも商業資本へととなる。かつてギャラリーの外の空間にアートを設置することは、反抗的な姿勢とみなされていたが、普通の活動に溶け込んできた。日常的な状況下でアートを見つけることが想定内となり、もはや新しくはない。

ミウォン・クオンのサイトの定義。

サイトにより決められた
サイト中心で
サイトが参照された
サイトが意識された
サイトレスポンス
サイトに関連した
(Kwon 2002: 1[翻訳者訳])











日本に住み始めて最初のプロジェクト

住宅問題

ホームレス

ホステルに滞在

不安定

公私の空間の境界線をかける

展示する建物の中から
入手した素材

GTS プロジェクト
芸大・台東・隅田

家はどこにでもある
どこにもない

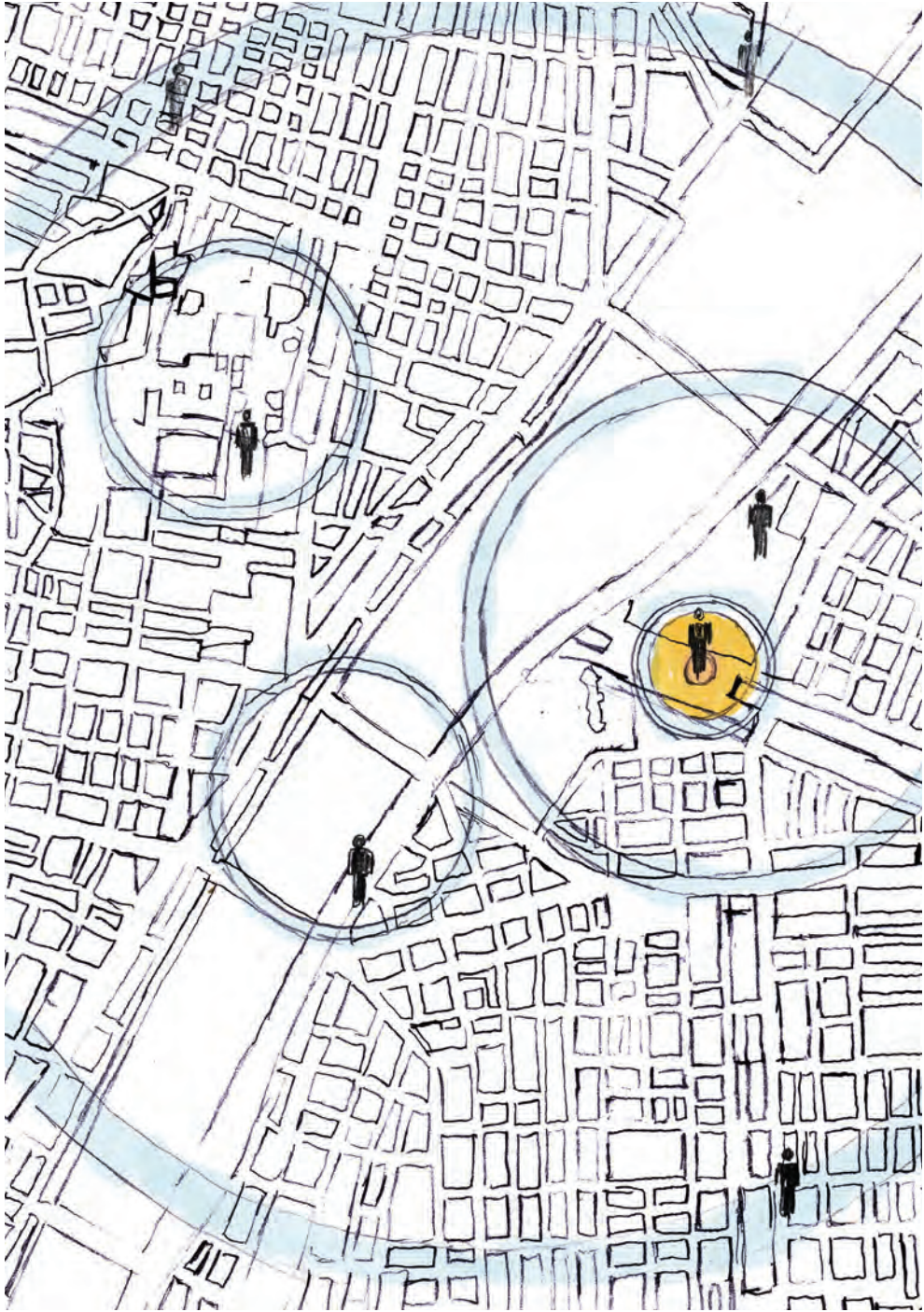
窓や金属の支柱構造など
空間に元々存在した建築を使用

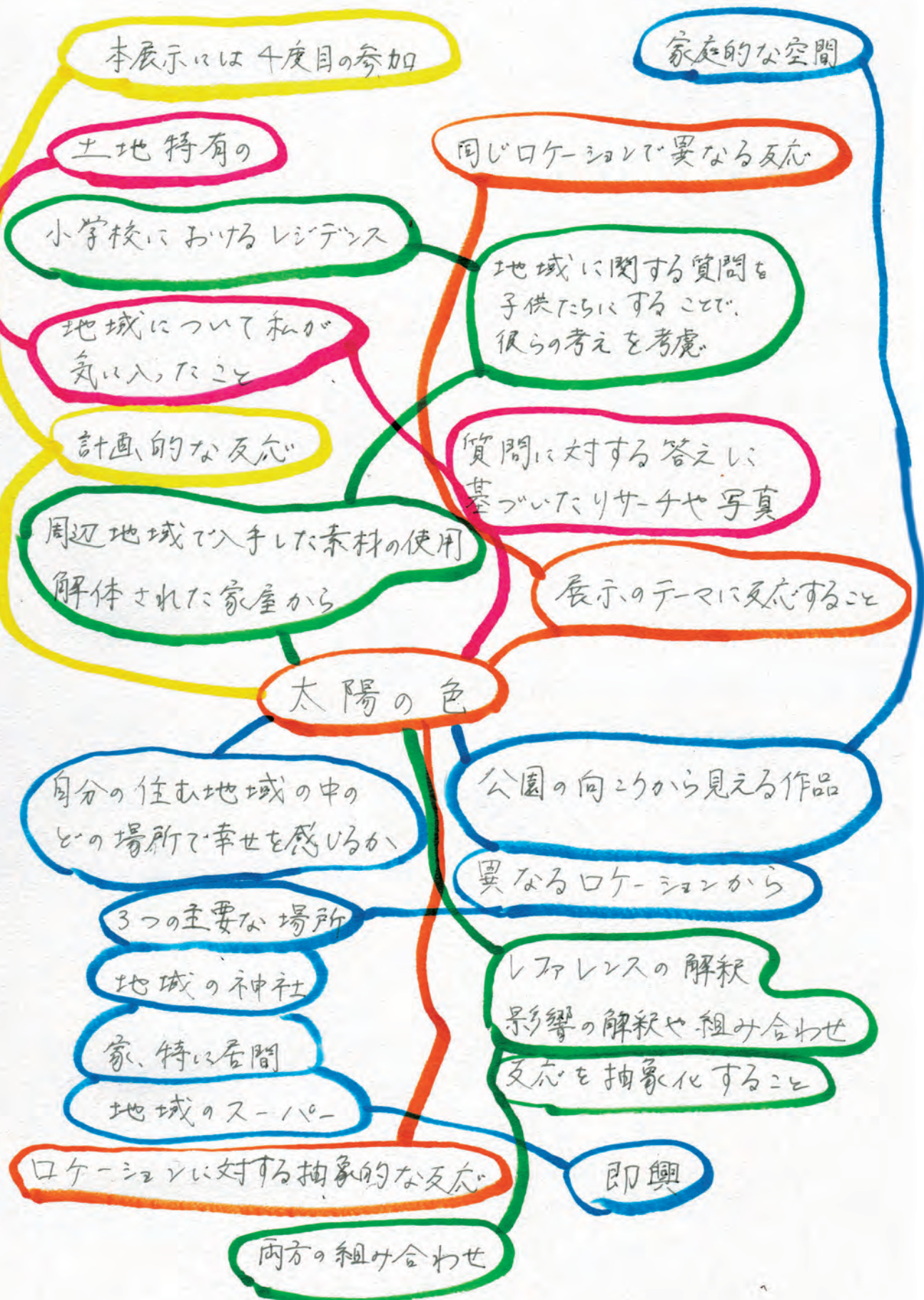
空間全体で建物のパーツを
真似ることに影響を受けた

地元神社で目にした柄や
モチーフに影響を受けた

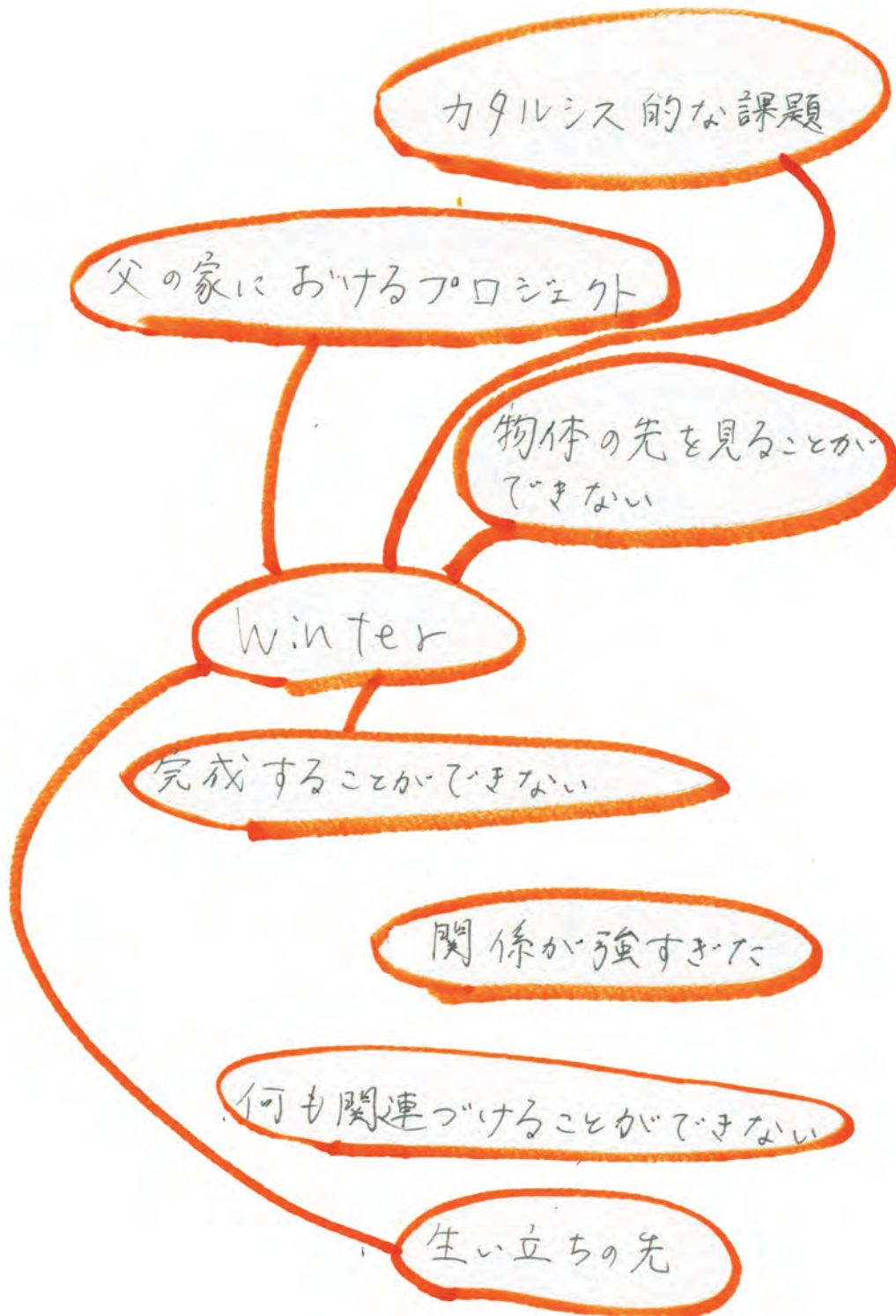
周辺地域に存在する
ホームレスの数に影響を受けた

彼らも実在する人だから

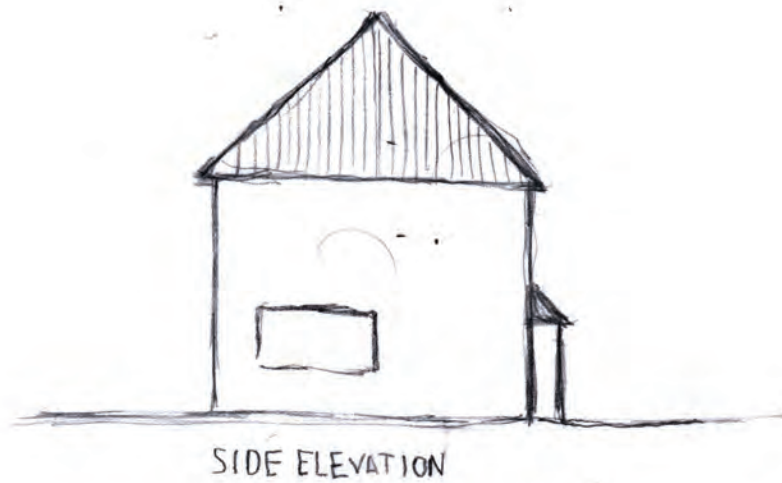
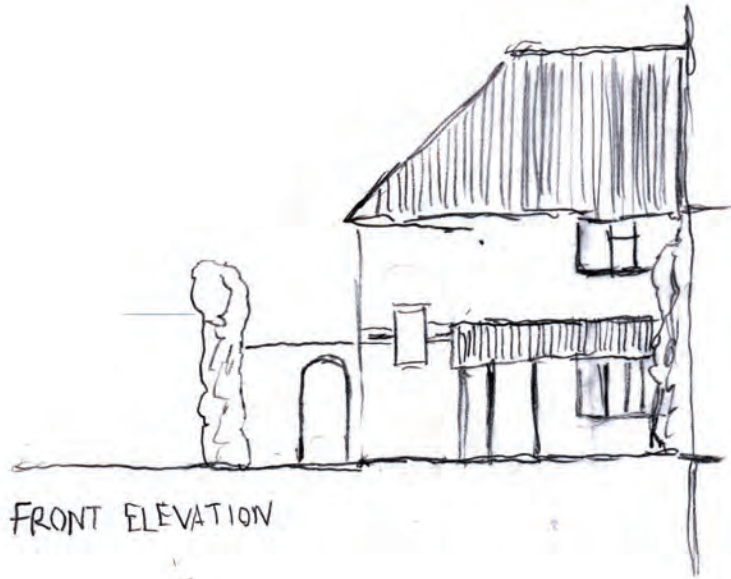




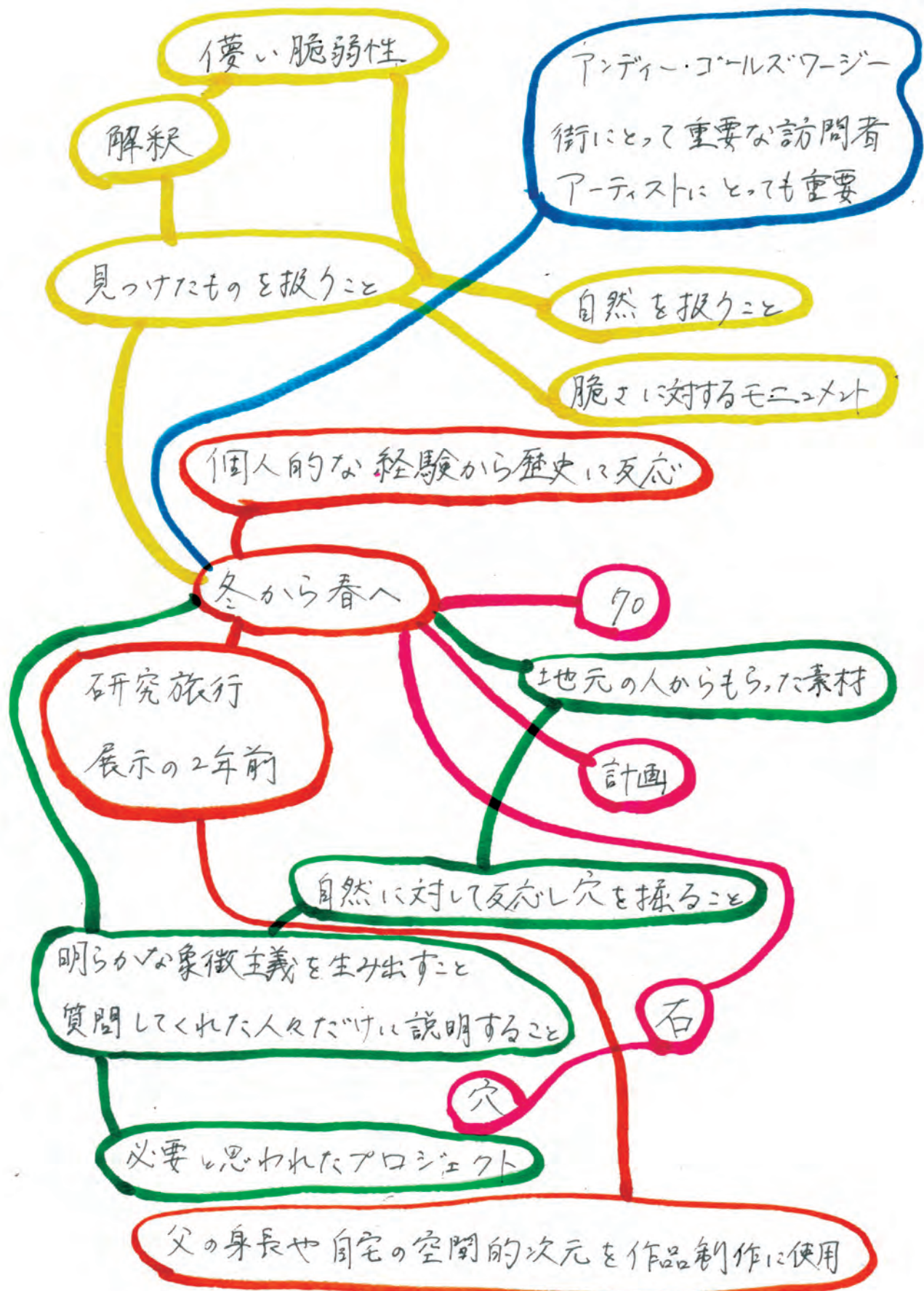






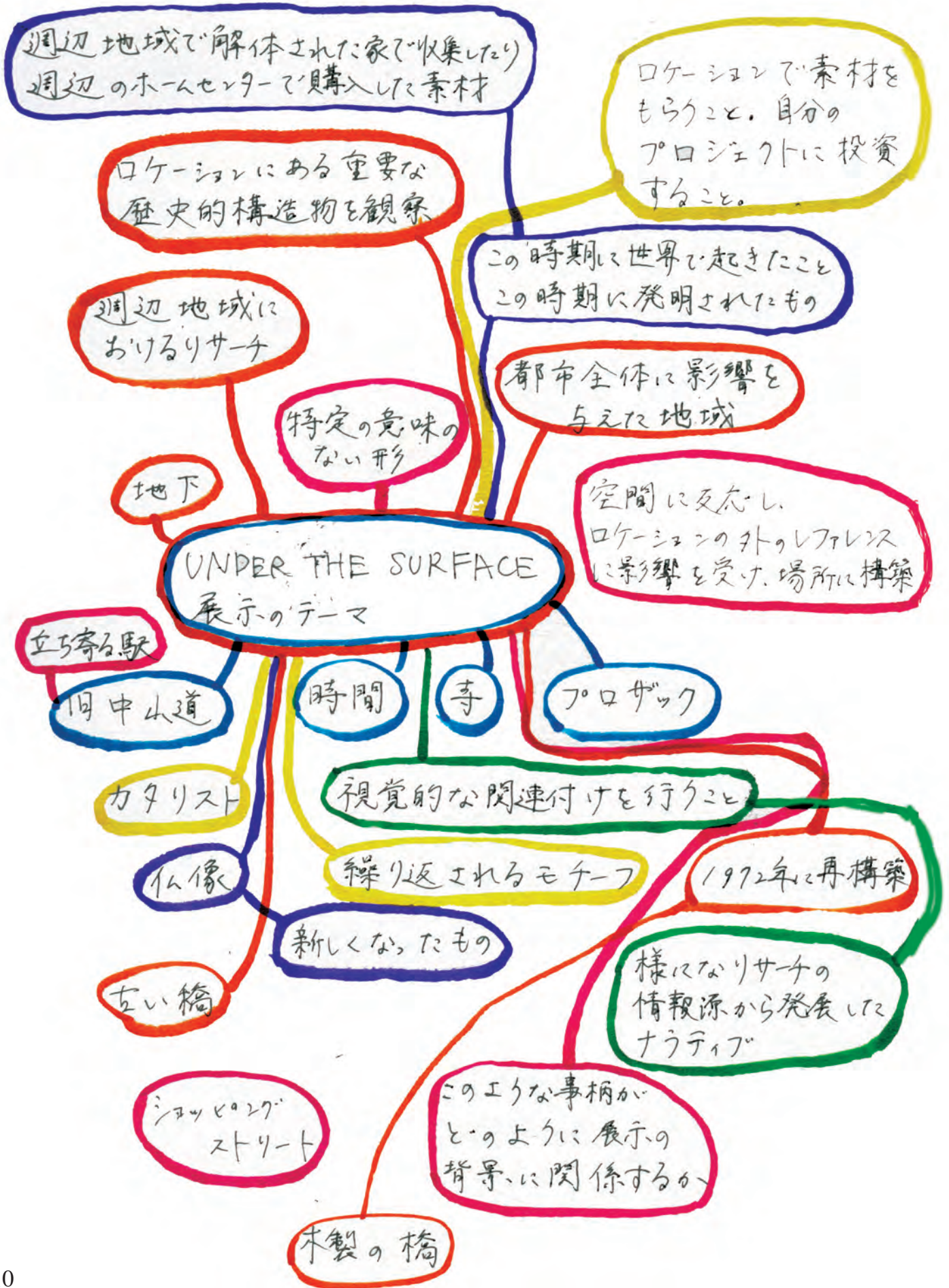


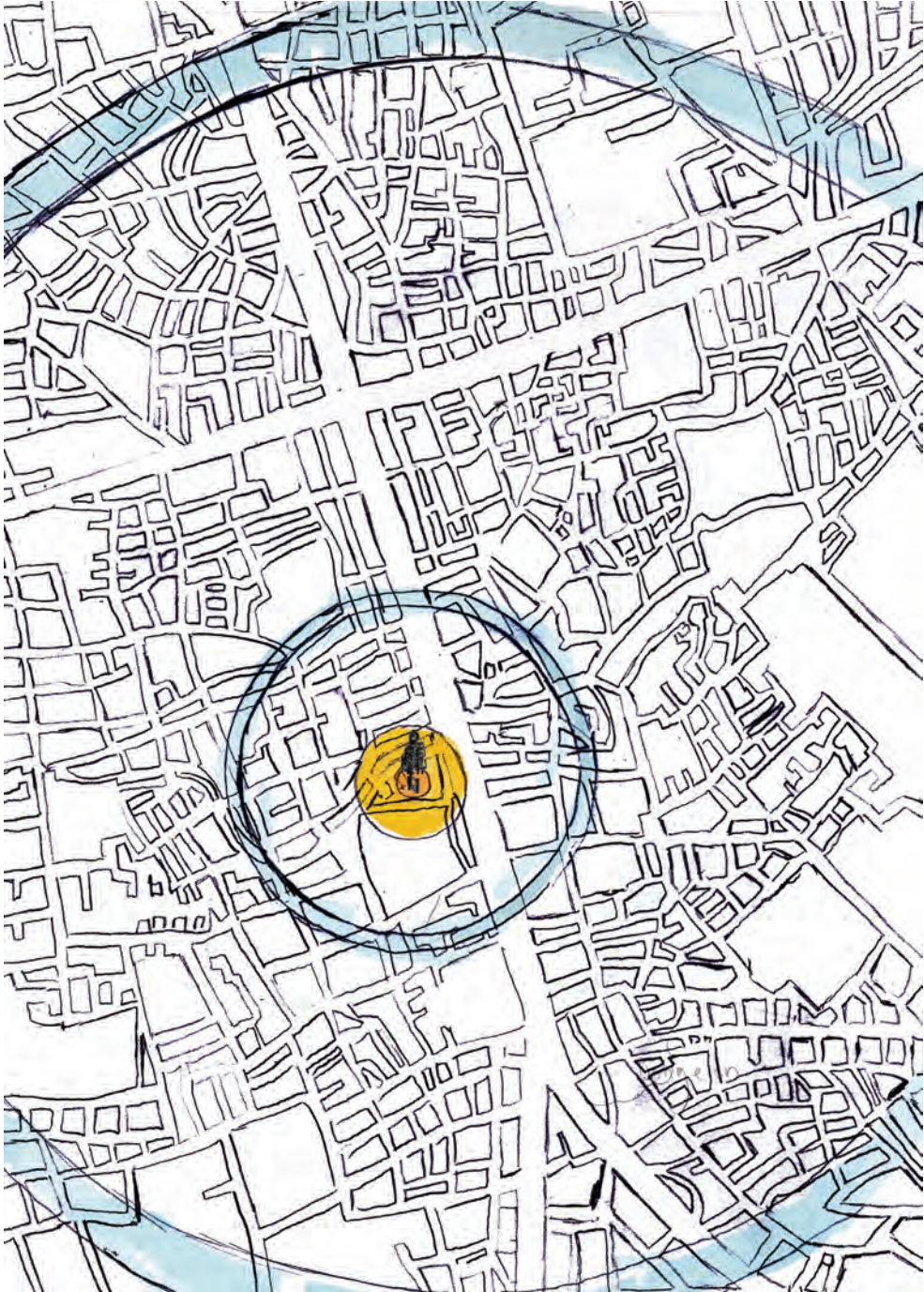


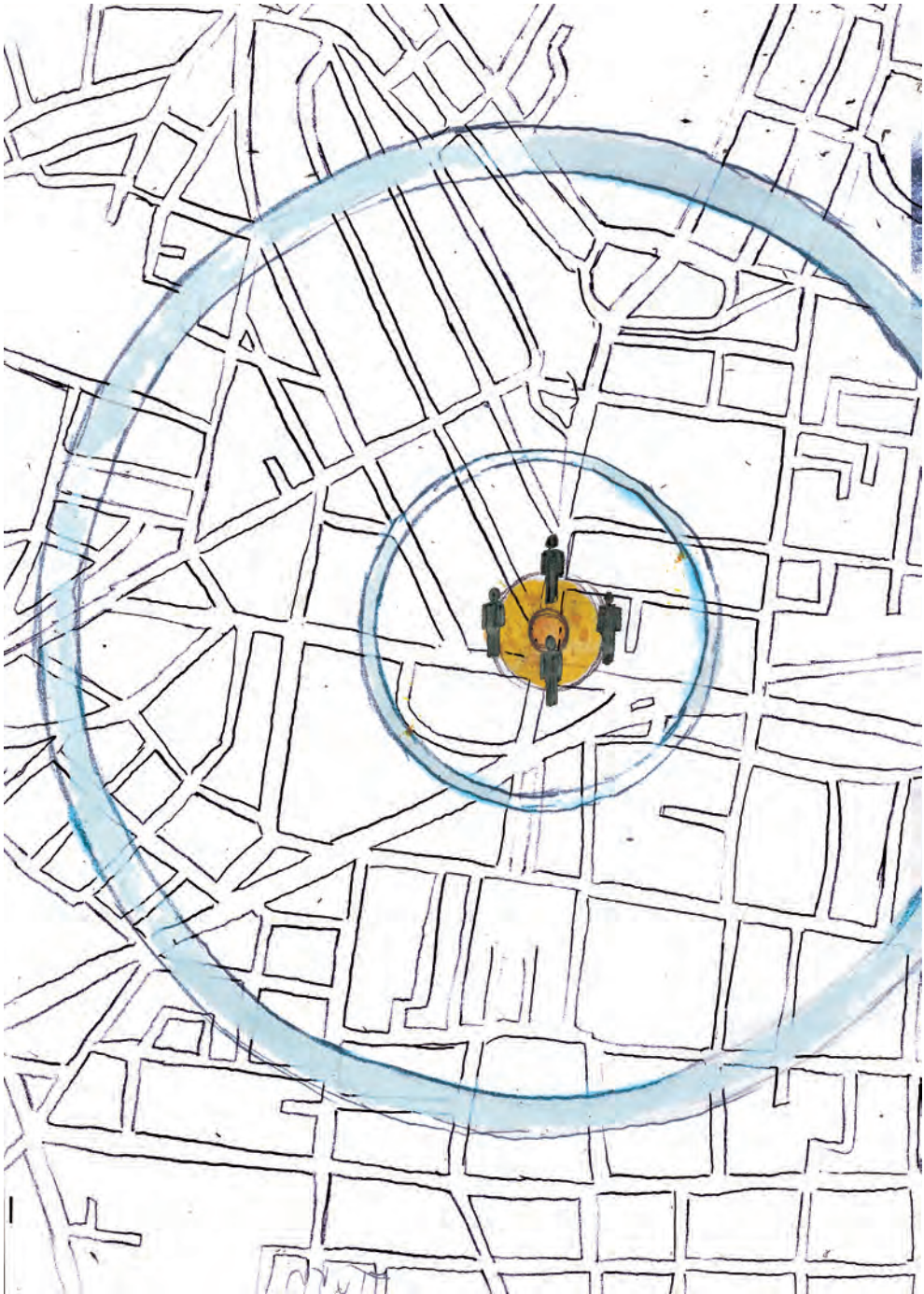




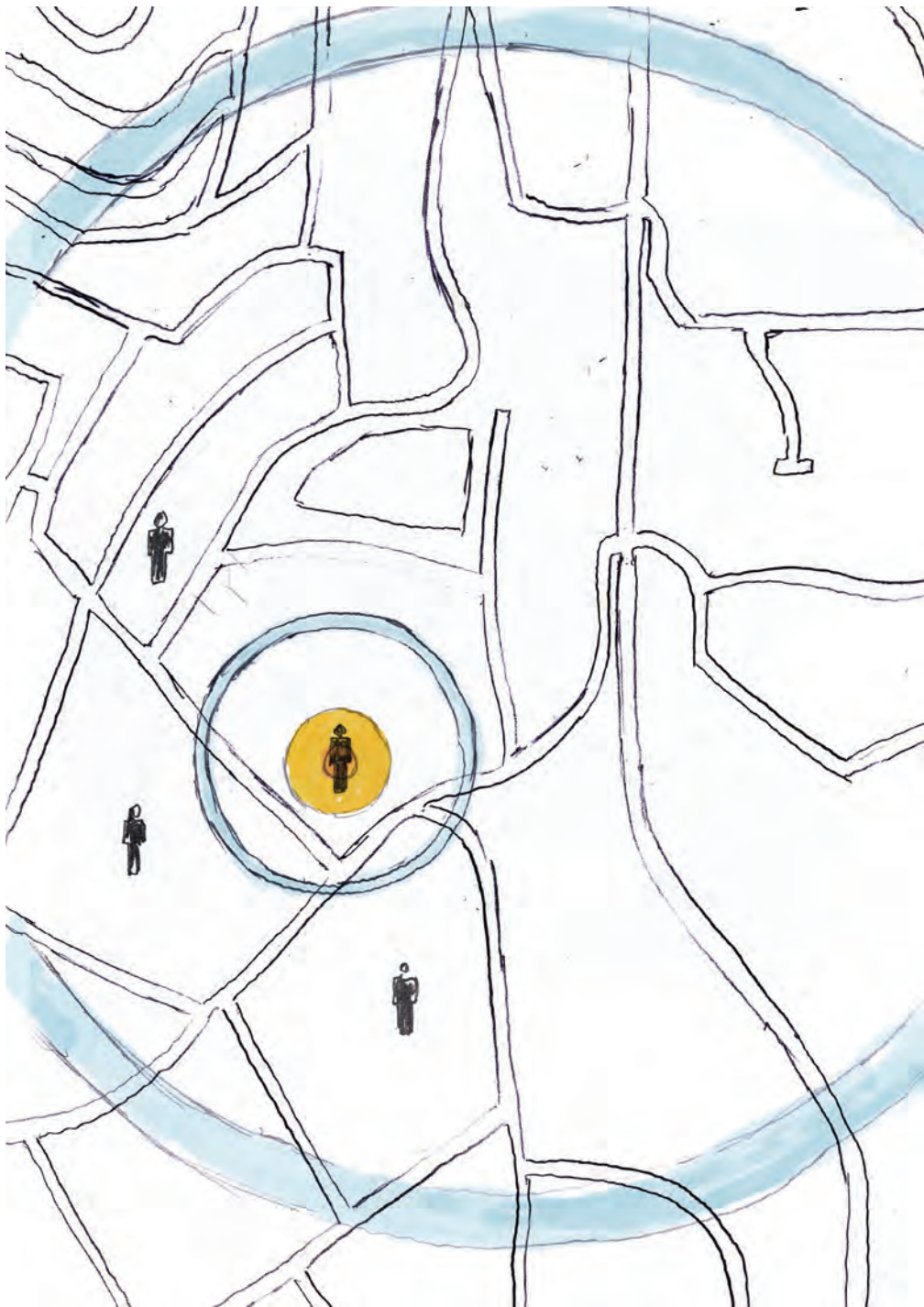
《冬から春へ》素材：廃材、竹、石(2016)

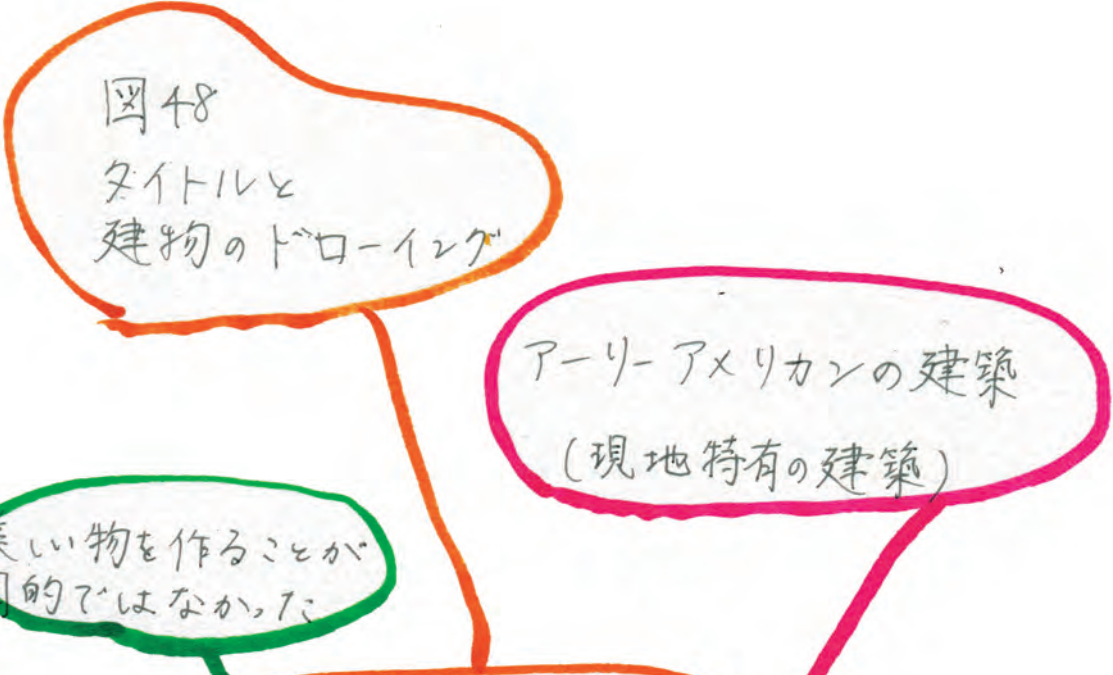












美しい物を作ることが
目的ではなかった

I-Park レジデンス

移民

I-Parkの私有地の歴史

イーストハダム
米国コネチカット

ウィリー家
森の中の廃墟

現地で収集した素材。
新品ではなく中古。
外気にさらされ
屋外で保管



建物、素材、そして構造の相互作用

素材の様相

家業を営む一家が日本軍の戦闘機に献金
どんな機体だったのだろうか？

憶測

戦闘機が製造されたか
否かは不明

その当時に製造
された戦闘機が
写真の中の戦闘機に
似ている

当時の他の戦闘機は、
現在どのように表現されているのか？

3Dモデル

コンピュータゲーム

模型

おもちゃ

写真

絵画

実在しないもの

憶測

代理

中え条

個人的な話

それはストーリー

材木所の所有者

1人の男性が、家業で稼いだお金を
使って戦争努力を支援

主観的
(憶測)

戦争努力への個人の支援

個人的だが、偏狭的ではない

その空間

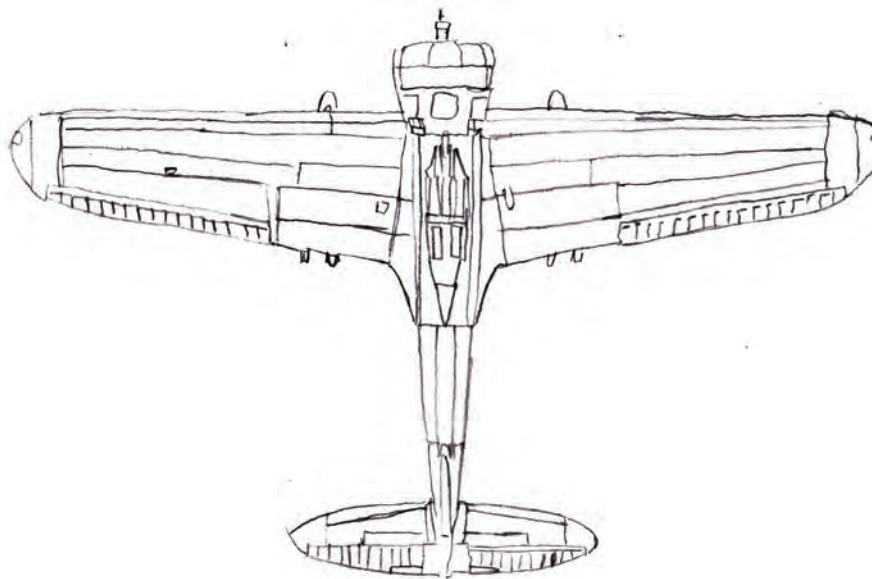
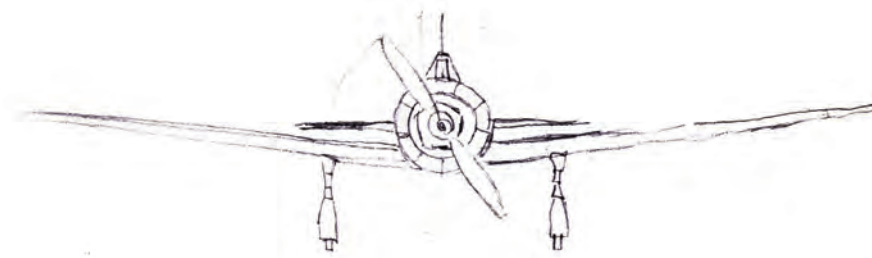
その構造は、建物に特有のもの

光と闇

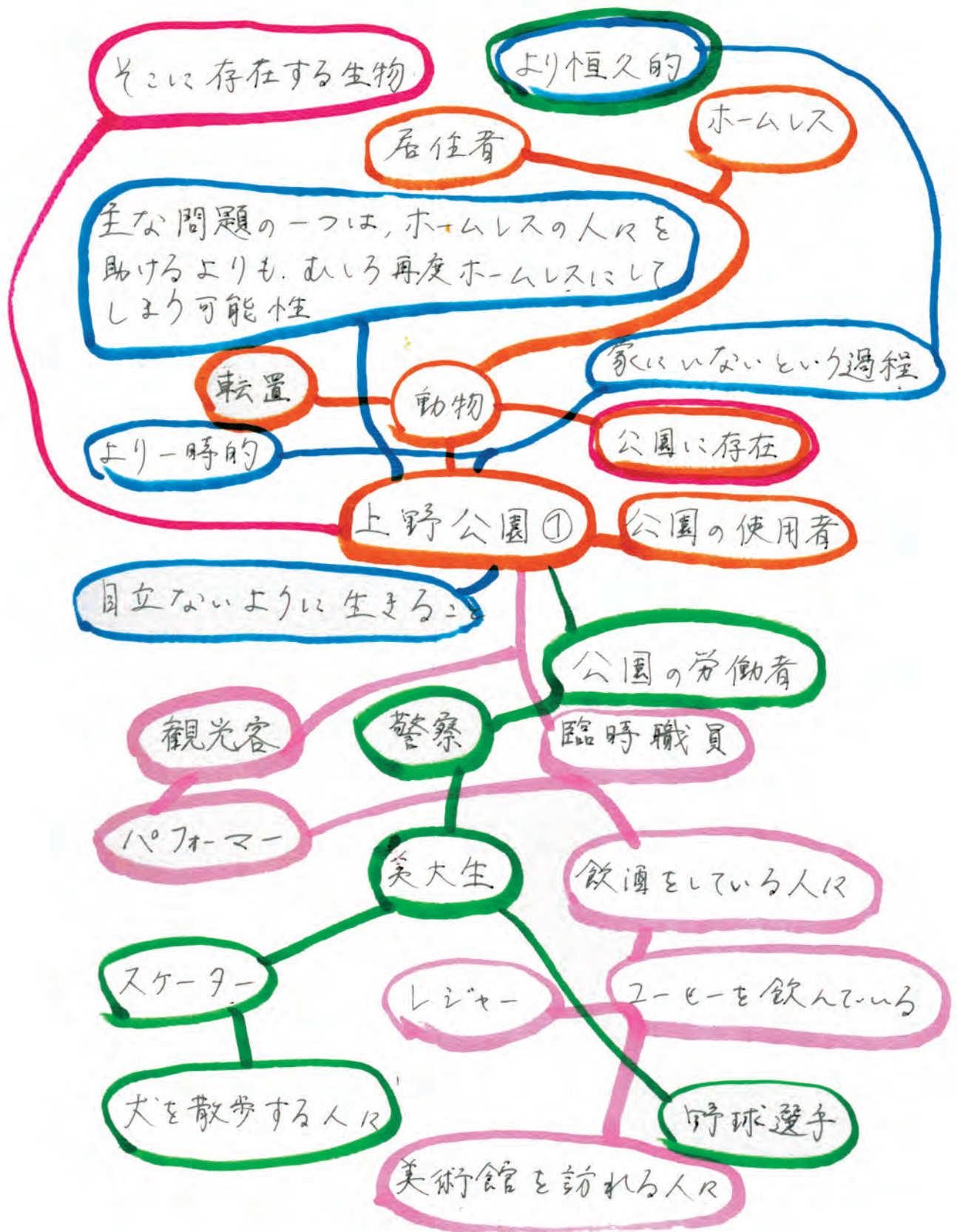
明らかではなく、美しくない

物体の存在





画像の出典：ウィキペディア（九七式戦闘機）



6. 博士審査展： 時間と場所のナラティブ

1. 背景

本プロジェクトは、直積的なアートプロジェクトというよりも、私の実践を他の人に理解してもらうために役立つ作品だ。そのため、以前に行ったプロジェクトのアイデアや、主要点を引き継いでいる。これには、ロケーションに対する反応やリサーチに基づいてアイデアを展開することが含まれる。また屋外の主な展示エリアに加えて、展示会期中にもほぼ毎日作品制作を続けた。

本論文の冒頭で、修士課程修了作品展のプロジェクトについて言及した。作品搬入の4週間前に父が亡くなったことが、作品制作に影響をもたらした。それは意図せずに受けた影響だった。3年後の今、この特定の個人的なテーマに戻る必要はない。だが、個人的な影響を受けずにプロジェクトを開始するのではないことの認識が重要だ。本プロジェクトは、ロケーションに関する私自身のナラティブから展開されてきた。起点となったのは上野公園というロケーションだ。上野公園自体は急速な発展を遂げていないが、私の焦点が変化した。

見ることの内省的な性質と時折私が呼ぶもの。それは、自分が目にする全てのことを見ることを意味しており、さらに自分が見ている方法自体も見る。

(Eliasson 2014: 144 [翻訳者訳])

私は大概、まるでその場所に行ったことがないかのようにしてプロジェクトを開始する。これは、能に多大な影響をもたらし、初心忘るべからずという言葉を残した世阿弥から展開されたシンプルなアイデアだ。個人的には、この言葉を観察の投影と解釈する。物事を眺めるほど、様々な事柄が見えてくる。

過去5年間にわたり、私は上野公園の中を何度も歩き回った。3年前に作品を制作した際には、文化的な建造物を観光客の視点からリサーチし、起点として2館の美術館を選んだ。しかし今回は、公園の居住者を観察してきた。



公園は一時的な空間だ。その空間を占有する多くの人たちは、単に通行しているだけだ。労働者、観光客、警察官、臨時職員、パフォーマー、犬を散歩する人たち、コーヒーを飲んでいる人たち、池でボートに乗る人たち、美大生、そして動物園を訪れる人たちだ。公園の居住者は、ホームレスと動物という主に2つのグループのみである。動物園にいる動物たちは、招待客だ。

野生動物たちは、上野公園を住处にしてきた。ホームレスの人々はほぼ日常的に同じ場所に住んでいるが、彼らの現在の状況も一時的なものだ。彼らは、様々な理由でホームレスになった。私は、台東区の郷土・資料調査室を訪れ、ホームレスの状況について調査した。彼らの半分以上は失業や仕事の減少が原因でホームレスになった報告する論文(義平 2006)もある。病気やけが、高齢で仕事ができなくなった人々もいる。

私は来日する前の2年間、ホームレスのホステルで絵画の講師を務めた。そして、毎日昼間の上野公園でホームレスを目にして、当時のことを思い出した。独自のボロ家を建てるホームレスもいることから、彼らを理想化する人々もいる。だが多くのホームレスは、システムの外部に存在するホームレスに対して憧れを感じることなくホームレスになってしまった。昔からどの国においても、アーティストたちはこのような状況に反応してきた。例えば、日本人アーティストの川俣正は、ロッキング・ロンドンというプロジェクトを展開し、ホームレスの避難所を設計し構築した(川俣 2001: 328)。

私は、最適な解決策は彼らが住むことのできる家か部屋を提供することだろうと直感的に感じた。理想的な解決策ではなく、現況の改善、つまり段ボール箱の寄せ集めの改良を考慮することだ。段ボールが使われている理由は、それが都内のほぼどこでも見つけることのできる素材だからである。また、国外においてもホームレスは段ボールを使用している。

他の場所を思い出させるような物体で溢れている場所

六角形を使う理由

六角形に戻る理由

特定の定義がないもの

象徴主義ではなく機能により定義されたもの

西洋美術館

良い例

複数の運想

複数の意味

ホームレス

自由

病気

上野公園②

視覚的な存在

不運

絶望的

絶望的でない

メンタルヘルス

飲酒問題

薬物問題

金銭的問題

労働問題

ホームレスであることへの芸術的な反応

川俣

アコレチ

坂口

助け

食品衛生

理想的な解決策

理想的な世界

入手可能な素材

段ボール

人々の世話をすること

家を提供すること

安定した構造も

あることを認識

システムの一部である

ことは望ましくない

私的

ホームレスの体験

4つの状況

ホームレスを助けること

上野公園の中を歩いていて、ホームレスや動物たちが同じような放牧民的方法で存在する様子に興味を惹かれた。だが、野生動物たちの寝床はほぼ目にする事ができない。あえて探さない限り、見つけられないかもしれない。逆に、ホームレスは日常的に寝床を片付けるものの、目に見えることが多い。所有物や寝具などを積み重ねブルーシートで覆ったカートは、公園の周辺でもよく目にする光景だ。

もちろん夜になると、動物たちは自分たちの存在を隠そうとはしない。昼間も日常生活を続けるものの、生存するためにほぼ身を隠しながら行動する方法を見いだした。ホームレスの人々が自分たちの存在を他者に気付かれずに、今よりも快適な生活を送るため、どのようにして動物と同じような状況を再現できるだろうか？

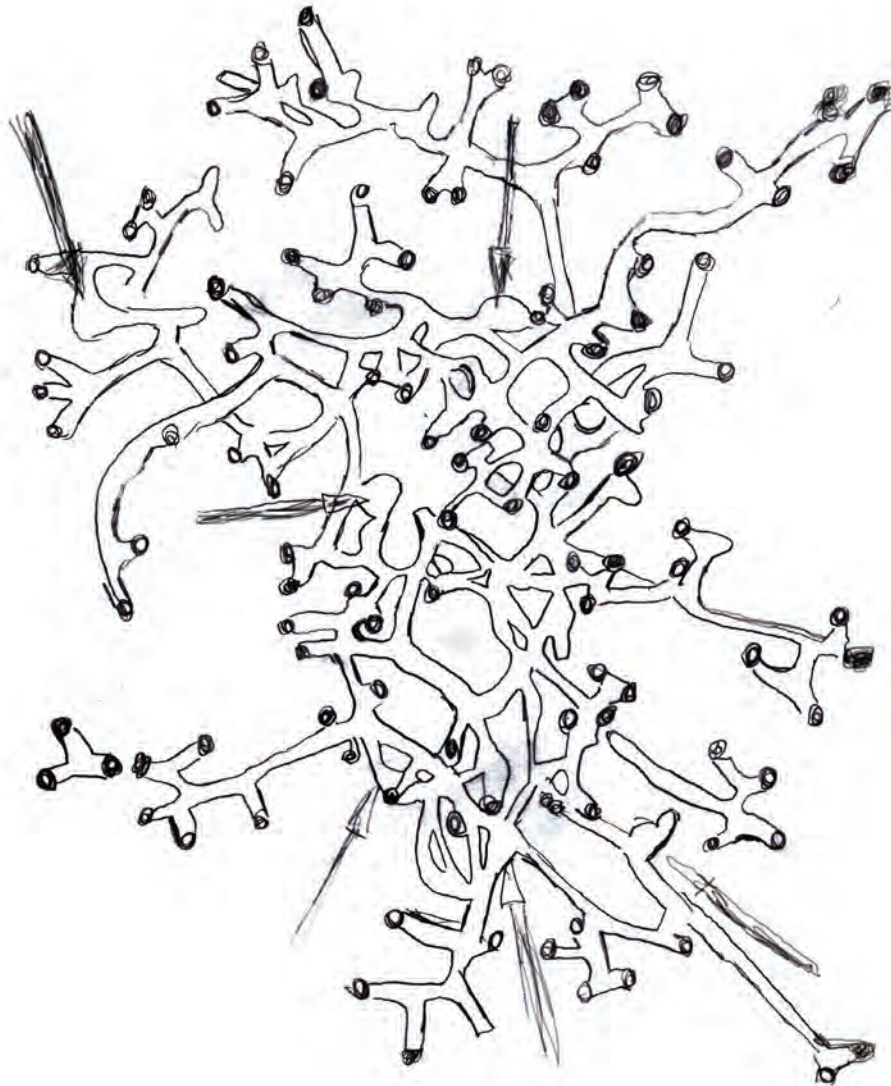
私は、動物たちが住処をロケーションに直接構築している様子に興味を持った。人間はしばしば動物を擬人化するが、私は人間の建築と動物の行動を比較しようとしている訳ではなく、彼らが素材や空間を使用する様子に興味を惹かれる。建築する動物たちが作り上げる構造は、サイトスペシフィック、またはサイト・レスポンシブであることが多い。彼らは、生存するためにロケーション内に存在する素材や要素に頼っている。私たちが歩いている道の地下に生きている動物すら存在する。

公園で目にする物体を眺め始めた。すぐに気がついたのは、物体の間に存在する空間や、人々がほとんど気づいたり注意を払ったりしていない物体の量だった。

公園にいと、どのような要素が目に入ってくるだろうか？美術館、アートギャラリー、カフェ、レストラン、トイレ施設、倉庫、交番、スポーツ施設、ボート乗り場、屋台、モニュメント、宗教的な構造、そして動物園。公園内では、常に何か建物や機能を加える工事が行われている。観光客の呼び物も含まれるが、段ボール箱の適切な代替品を提供するために加えたり、使ったり、介入したり、模倣できる物はどれくらいあるだろうか。

リサーチの箇所ですべてとおりに、私は作品制作において始まりや終わりが明らかに定義されていない物体や物体の配置に興味を抱く。どのようにして美術品と普通の物体を区別すると同時に、美術品を明らかに美術とは特定せずにロケーションの中に配置することができるだろうか？

一つの物と別の物との間の空間を占拠することの、詩的で抽象的な特性に興味を抱いてきた。本プロジェクトではその詩的な要素に実用的なものを提案することだ。



<?> Figure 1.1. Brants' whistling rat burrow system: 115 burrow entrances (black dots) allow a foraging Brants' whistling rat to make a rapid escape from predators; arrows mark six nest chambers.

After Jackson, T. P. (2000). Adaptation to living in an open arid environment: lessons from the burrow structure of the two southern African whistling rats *Parotomys brantsii* and *P. littledalei*, *Journal of Arid Environments* 46, 345-55, Figure 1, part (a). © 2007 with permission from Elsevier

上述の点すべてを考慮した後、今回は下記の4つの状況を扱うことにした。

1. モニュメントなど、明らかに目につく場所にある物体を追加すること。
他人に気付かれずに中に入ることができるほど大きな物体。
2. 既に存在するものにあまり影響を与えずに、公園の中の建物に何かを加えること。公園にはたくさんの建物があるため、ホームレスの寝床は人々に気付かれないだろう。
3. 野生動物の存在と類似した方法で、既存のモニュメントに文字通り基づいたものや既存のモニュメントの下に何かを加えること。これは、ねずみの穴のような地下に存在するものがホームレスの家になる可能性を示唆する。公園に既にあるモニュメントの下に、シェルターとしての一時的な空間を作ることができるかもしれない。これは、短期的な解決策を示唆する。
4. 建築中に見えるものを置くこと。公園では、常に何かは建設されている。建設中に見えそうなものを作ることで、ホームレスが短い間気付かれずに滞在することができる空間を提供できるかもしれない。公園ではイベントのために常に何か作られているため、この介入は公園の一時的な本質には影響を与えない。

公園の一部のように見える可能性のある物体を作るため、公園内で目にする普遍的なモチーフや形を使う必要があると感じた。

日本やアジア各国にある自社には、たくさんの灯籠がある。上野公園の灯籠は、私が一つの場所で目にした最大規模のものだ。灯籠の多くは、六角形である。小さな灯籠の大半はほぼ同じ大きさをしており、神社の入り口に続く直線を構成する。神社のすぐ外に、お化け灯籠がある。高さ6.06メートル、笠石の周囲は3.63メートルで、1631年に寄進された。一番興味を惹かれたのは、京都の南禅寺と名古屋の熱田神宮にも似たような灯籠が存在するという情報だった。

私は作品の中で、様々な場所にある事柄の間に関係に何度も立ち戻る。例えば、上野東照宮は、日光の東照宮との関係がある。様々な時期・期間、形、そしてモチーフをつなげる。目の前にある物体を眺めながら、見えないものを考慮するように駆り立てられた。自分の目の前にある一つのことと、視界の外にある別のことの間には同時に発生する関係がある。全ての物体には独自の連想がある。私たちを取り巻く世界の中で、隔絶された状態やナラティブのない状態で作られた物体や要素は無い。



本作品におけるナラティブは公園から始まったが、大学のキャンパスを公園の模型として使う。キャンパスは公園の中にある一方、閉ざされた空間で、公共の空間のように開放されていない。美術館、カフェ、モニュメント、緑地など、他の公園の空間と同様の特徴を持つ。藝大は、現実の世界に制限されることなく、物事が提案され、研究され、試行される場所である。

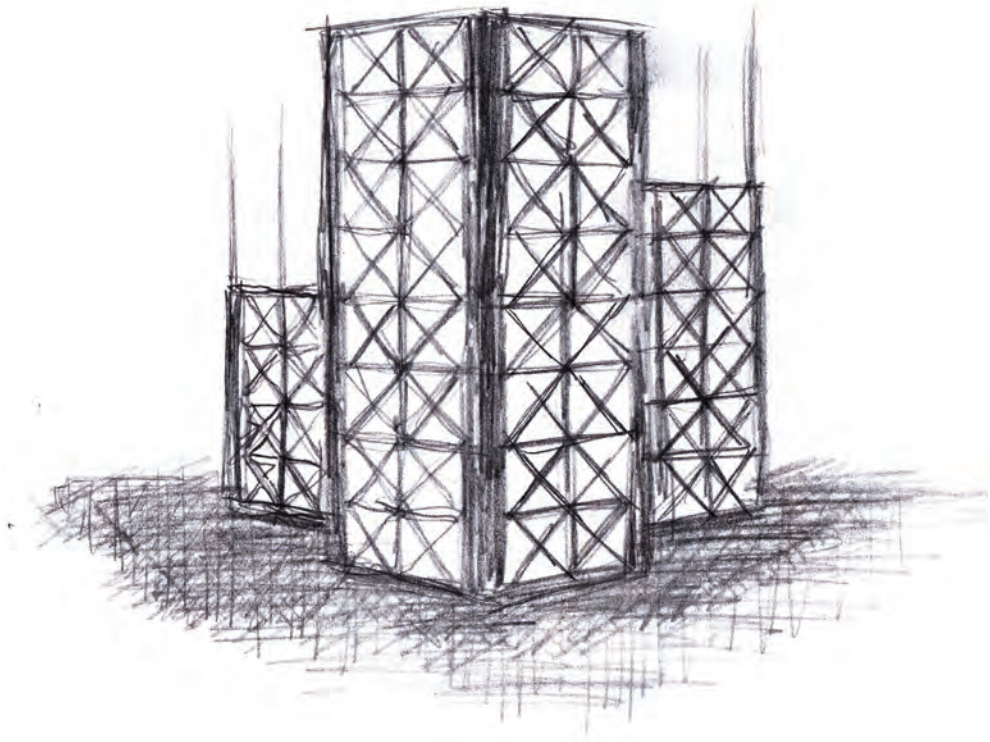
私の意図するプロジェクトは、ホームレスを邪魔したり影響を与えたりするかもしれない。それをポジティブな方法で行いたいと望む一方で、彼らに注目が集まって強制撤去させられてしまう懸念がある。彼らは存在するが、注目されるべきではない。公園の代わりに藝大のキャンパスを用いてこの問題を考える。公園でとったであろうと同じアプローチをキャンパスに適用する。

2. 素材

本プロジェクトを行うにあたり、中古の素材、または無料の素材を調達し使用する。上野の地域では日常的な素材を調達することが可能だろうか？

日本では家具などの大型物品の廃棄に料金が発生するため、大量の中古素材や廃棄素材を無料で入手することは困難だ。1つの可能性は、このような大型物品を収集し、作品の基本構造に使用することだ。

また藝大では、学生たちが大量の素材を廃棄する。捨てられた素材を使って作品制作をする学生も多いが、大半の素材が収集され処分される。これらを用いる場合は、構造のカモフラージュや強化に追加部品を購入する必要があるだろう。



ドローイング 素材： (2017)

3. 作品

サイトスペシフィックな作品に対する私のアプローチは、一つに特定されておらず、4つの段階を経る。まず、サイトに対する直感的なレスポンスをとる。直感的というのは、少なくとも個人的興味、継続的な学び、過去の経験、そして憧れという4つの要素で構成される。

2段階目のレスポンスは、リサーチだ。そのプロセスは、文化的そして環境的特徴などサイトに関する情報の調査、物理的に歩き回ること、地域の人々との会話から始まる。

3番目のレスポンスは素材だ。サイトスペシフィックな作品を制作するにあたり、人々からもらった中古素材や地域の店舗で購入したものなど、周辺地域で入手した素材を扱う。前述のとおり、今回は廃材を主に使用する。

最後のレスポンスは、現実が露わになるときだ。ギャラリー空間にしるサイトスペシフィックな空間にしる、私が携わってきたすべてのプロジェクトには常にルールが存在する。場所ごとに、理にかなっていることや許されることが異なる。これが作品の仕上がりに影響を与える場合が多い。特定の介入を行おうとして臨んだとしても、その結果を否定されることもある。私の作品は、概して空間との交渉だ。

本作品は、前述の4つの状況に基づいた大学構内における一連の介入だ。それぞれの介入の間、また周辺環境との間にはつながりが生まれる。作品が空間の一部となるよう、複数の物体として展示される。



素材：木材 (2017)

最初の状況、つまりモニュメントなど明らかに目につく場所にある物体を追加するため、お化け灯籠を表現するものとして高さ6メートルのインスタレーションを制作するつもりでいた。計画達成のために、すべての素材を入手した。しかし安全衛生規則上、博士審査展における展示には高さのある作品を作ることができなくなった。そのため、リサーチを振り返り、行う必要のある事柄の空間的關係に折り合いをつけた。私はこの点をネガティブには捉えていない。というのも、物事が計画通りに完璧に進むとは期待していないからだ。サイトを扱うためには、ある程度の妥協が常に求められる。灯籠を表現する代わりに、灯籠に影響を受けたものを制作することにした。高さのある1つのインスタレーションを、蜂の巣の構造に影響を受けた背の低い3つのパーツに分けることにした。前述の通り、私は建築する動物をリサーチしてきたが、人間があえて探さない限り目にすることのないモグラやネズミ、そして昆虫などの動物を特定した。また本作品は、前述の4つ目の状況も扱う。つまり、建築中に見えるものを置くことだ。加工されていない木材を素材として使用することで、最終的な仕上がりは建築中または解体中の構造に見える。これらの2つの状況は、ホームレスを助けるものだ。彼らは気付かれずに構造の中に滞在できるからだ。だが博士審査展のために、今回は内部を露わにすることにした。大学美術館の横にこの作品を配置し、美術館3階のテラスから内部が見えるようにした。キャンパスで他に行う介入の場所を示すマップも設置した。このインスタレーションとマップは、鑑賞者が他の介入を見つけに行くための手がかりを与えるものだった。

このインスタレーションは、構内に配置された私の他の作品を見つける上で鍵となるポイントだ。博士展の会期中、大学のキャンパスに介入する作品を合計で16点制作した。2番目に主要なインスタレーションは、構内に既に存在する2つの六角形の構造、つまり岡倉天心の彫像とベンチで囲まれた木との関係性を構築した。このインスタレーションも六角形だが、中には入れない。偽扉を取り付けることにより人々の想像力を掻き立て、中に何が入っているのか考えてもらった。セメントを塗り、周りの建物やモニュメントとの潜在的なつながりを生み出した。



素材：木材、ブルーシート（2017）

他の14点の作品と合わせて、マインドマップを物理的に表現した。私は、マインドマップが、マイク・ハンセルによる『Built by Animals』の中で目にしたネズミの巣穴の図 (Hansell 2009: 16)¹に似ていることに気付いた。ここでは入り口と出口の間に違いがなく、つながりが生まれている。他のマップよりもこの図に興味を抱いた理由は、人間が作り出した地図と比べて有機的だからだ。動物たちは、環境作りに対して直感的に反応している。これは、私の思考回路に似ている。正しいか、間違っているかということを探めているのではなく、様々な方向性やナラティブに従っているからだ。この巣穴の図に基づき、キャンパスで行う介入の位置が決まった。

14点の作品のうち6点が六角形に基づいていた。残りの作品は、学内で集めた素材を用いて即興的に制作した。少なくとも14点のうち5点が、野生動物の存在と類似した方法で、既存のモニュメントに文字通り基づいたものや既存のモニュメントの下に何かを加えるという前述の3番目の状況を扱った。これらは、既存のモニュメントの横や付近に配置された。そのうちの一つは、1931年に朝倉文夫が制作した石川光明の彫像だ。14点のうち7点は全て異なる大きさで、一つ目の状況を扱い明らかに目につく場所に置かれた。

また、取り扱う状況のうち、既に存在するものにあまり影響を与えずに公園の中の建物に何かを加えるため、目立たないコンクリートのような箱をデザイン科の校舎の横に配置した。

博士展の会期中、タイムラインに基づきグラウンドの空間でインスタレーションの制作を継続した。まず、お化け灯籠が神社に奉納された1631年を調べた。その年に、日本では奉書船制度が導入され、貿易規制が強化された。ヨーロッパでは、二つの戦争や魔女狩りが起きていた。これらの情報から、防御と恐れという二つのキーワードを選択した。また、石川光明や、1931年に日本や世界で起きた出来事を調査した。その結果、絶望と支えという言葉がキーワードとして見出された。これらの情報が、会期中に制作する作品に影響を与えた。

¹ Figure 1.1. Brants' whistling rat burrow system: 115 burrow entrances (black dots) allow a foraging Brants' whistling rat to make a rapid escape from predators; arrows mark six nest chambers.

After Jackson, T. P. (2000). Adaptation to living in an open arid environment: lessons from the burrow structure of the two southern African whistling rats *Parotomys brantsii* and *P. littledalei*, *Journal of Arid Environments* 46, 345-55, Figure 1, part (a). © 2007 with permission from Elsevier



(写真上) 絵画、ドローイング (2017)

(写真下) 木材、セメント (2017)

ホームレスに対する自分の考え方を提示してきたが、ホームレスの状況を扱う様子について人々が独自のナラティブを提示することができるような状況を生み出した。このトピックに関して人々がコメントできるよう、美術館のテラスにノートを置いた。人々の意見は様々だった。ホームレスの人々に対して非常にネガティブな意見を述べた人もいれば、同情的な人々もいた。政府が状況改善のために何かするべきだという意見もあれば、市民各自が何か行動を起こすことで救われるホームレスの人々は少なくないという声もあった。コメントが書かれたページをスキャンして、次頁に示した。

明らかにホームレスの問題は、上野公園だけに存在するのではない。これは世界的な問題であり、私は今後の作品を考えリサーチするにあたり、本プロジェクトとロケーションを一つのカタリストとして使用する。



木材、セメント (2017)



(写真上) 木材、セメント (2017)

(写真下) 木材 (2017)



素材：木材、セメント (2017)

日本のホームレスは
どうですか?...

こちらで書いてください、~

温暖な日本だから 。。

最近上野周辺で

路上生活者の穴々を見かけないのかと本日は、
どこへ移動したのかしら。

イボというサトウ。

目がとっても輝いて人が多い。

私たちの隣にいますか、いいのはい他者。

夏は外の生活は気持ち良いと聞き取れた。

高田渡が。見た「生活の本質」は
路上生活者をうたったもの。

やはり冬場は陸を敷いては眠れないのです。

一時保護センター(都)はあそこの

彼ら彼女らへのニーズに対応していない。

八丁ものに収めてはい終了。



2017.
12.13

最近学校近くの路上で生活する方が減ったらしい。

誰が見届けたのか、見届けてくれたのか気になる。

「ホームレス」だからと言って不幸だとは限らない。

ホームレス = 不幸はあくまで日々の固定観念に過ぎない。

生産消費を止

貧困の固定観念を打破する。近頃、生活者への支援が不足している。生活者への支援を強化しよう！

真面目に働こうと思わされてくる
反面教師的存在。

全ての日本人はホームレスになる可能性
がある。

だから彼らは明日のわたしなのかもしれない。

家が冷いと寒くて大変だと思います。

ホームレスを感じる幸とは、良い意味では悪い意味では
本当の幸と不幸のかけと思っています。

政府が何にかすべき。
支援の普及(情報が不足している)
大切だと思います。

銭湯
は
安
い
よ
う
に
な
り
ま
す

居場所が少なくなっているように感じます。
公園や駅で見かけなくなると、たと思います。

나도 몰라요

限) 近く 存在 ...

Hello from Hong Kong.
I am super amazed by the depth
of research. Thank you for showing your work!
I feel inspired.

さあどう

by TmTcZu!

My mom used to tell me that
Japan, ^{with} ~~is~~ ^{its} politically & enriched society,
the homeless chose to be homeless. But I do ponder of their
psychological state.

人の目につく所に居る理由は何でしょう。

普通に話せる人たらずに、往來する人と彼らとの間に大きな
壁が作られる。

逃げ

有精の心を温めよう。

孤独

ブルボットのチーズ

受け入れてくれる場所がある。

お小口にしよう。

さくら

それだけの
事情があると思う

自分が強くてボウズになる人はいらぬ。不思議

人生の選択眼の一つ。

彼らが座ったあと、そこに座りたくない。電車など、臭いが苦手。

私が一番驚いた（目をみはった）路上生活者1人。

ましろを頭にくりつけた人だ！

○社会の内と外ではなくて、そもそも自分自身でたりするんだ。面白かった。

臭い。服の洗濯

とにかく すがたな印象

日本のホームレス 餓死ほぼしつゝ 豊かな国だと思ひ

ホームレスと、家がある人、と、2つに分かれて いるのではなから、
クォリティーがある、と思ひ。

いつか、ホームレスになつてしまふ可能性ある。

ホームレスのよきな、気持ち、になつてしまふことは、自分にもある。Go
肉親を切れ！心の中。

何も愛おしい ほんに汚い人間

見目、キレになれなだけ

これから社会はだつたあつて 感じ

何となく、これだ...の？

これだから 社会はうまなつて いるのかしら...

日本人は誰かが「幸福」をくれるのを待っている
女は自分の身 守るべき
加えて 精神に出るお金があるなら 30万を
お金の為に使うべき

以前 不況地の周りでアート作品の展示があり
色んな作品の中に HLの方のおうちも「まさか」で在り
作品の「思い」を見たことが「あります」。

新宿の 覆っている HLの方と 中国や韓国の高齢者の
若者の 写真に撮られて 比べたことが「あります」

● 内身は死んでいる

一日、ホームレスに会った。

日本は 冷たい国。
国の支援が必要。

芸術の力で何かできることはなしてあげよう。

・ホームレスであることを何も不自由に思っていない人もいる

・女性ホームレスの存在

男性ホームレスよりも断然、気をつけておけばならぬことが「多い」。

基本は自己責任だと思おう。一生懸命に生きる術を自分で「見つけよう」。
でも、多額の支援はあって良いと思おう。

「世間体」じゃない！
という活動。

Homeless in Tokyo i think is because they decision, the
impove reality doesn't suit them so if they can find
~~their~~ their own way maybe they choose that
way.

ホームレスが存在するこゝろを忘れてしまふことが問題だと思ふ。(無関心)
考えつぎるこゝろが大切だと思ふので私はそうしています。

私、一旦人とのつながりから希望を捨ててしまふ人は、中々社会の中へ
戻るこゝろはできないのではなからかと思ふ。静かな絶望の状態なので。

(私にできるこゝろは、今身辺りにある人間関係を細くても良ゝので、つながり
いくこゝろはなからか考えます)

Sachiey.

Nemo intelligit quid faciendum est ..

どうにかできない問題がもうとくにどうにかなってると思うし。

どうにかできなかつたか、もうとくにどうにかしてると思う。



私に一人一人が自分を生きるこゝろが
解決につながると思います。 PoI

定期的に寝袋や下着、~~暖かい~~あたたかい料理などもホームレスの人々に配る活動を友人らと
しています。存在を認知し、問題視する人はいても具体的に行動に移さない人が大半であるの
はなせでしょうか。もちろん行政が動くべき問題です。しかし多くの人々がホームレスの
存在を知った上で日々大量の食糧を捨て、^{たばこ}古ぼけた衣服もどんどん新しいもの
を購入し、破棄するばかりではないでしょうか。できること、できる範囲ででも、一人一人の
行動で救われる人は少ないはずだ。

P.S. ホームレスが住める? オブジェクトを制作するこゝろは、一時的な寝床にはなったとしても
根本的な解決にはなならないかと思ひました。また、社会からホームレスの存在を
不可視化してしまうこゝろにも繋がりがなからかではないでしょうか。

Tokyo Spring

何故、住むことに注意して)

生活を保障しない人々現れて(る)のか

ホームレス = フォックス²⁰¹⁷ - ~~と~~ ほぼ一概に言えるらしい。

We love your work and hope it can start many conversations
and dialogue about the homeless situation in Tokyo and beyond...
Naomi & Teanne

Homeless = Familyless + Houseless??

彼らは今日本でいる国と大きくいが

ちがっただけで、同じ人間だ。

豊かた人との差が激しいからこそ

自立してしまうというか...

Very nice paintings Sam.

Jack M. Leon
=+-日 木曜日

Do we have any actual home?

Nice work. Go ahead.

Paul

参考文献

- Acconci, Vito (2001): *playing amongst the ruins*, London: the Royal College of Art.
- Alberro, Alexander (1967): *Sol Lewitt 1 Paragraphs on Conceptual Art - Conceptual Art: A Critical Anthology*, MIT Press.
- Bachelard, Gaston (1958): *The Poetics of Space*, Universitaires de France.
- Baek, Jin (2009): *Nothingness: Tadao Ando's Christian Sacred Space*, Routledge.
- Baker, Kenneth (11.12.2013): SFGate, "Amikam Toren Finally Able to Live by His Art", URL: <http://www.sfgate.com/art/article/Amikam-Toren-finally-able-to-live-by-his-art-5056227.php1> (参照日: 2018年1月5日)
- Bal, Mieke (2010): *Of What One Cannot Speak: Doris Salcedo's Political Art*, The University of Chicago.
- Barlow, Phyllida (2017): *Folly*, Black Dog Publishing.
- Benjamin, Walter (1968): *Illuminations*, Library of Congress.
- Bickers, Patricia (2015): Re-Toren, *Art Monthly*, July/August, 388.
- Bois, Yve-Alain (2015): *Painting as Model*, The MIT Press.
- Bois, Yve-Alain., Krauss, Rosalind (2000): *Formless: A User's Guide*, Zone Books.
- Botton, Alain de (2007): *The Architecture of Happiness*, Penguin UK, Kindle Version.
- Bunker John (10.2.2012): abstract critical, "Disciplined and Polished or Burn, Burri, Burn!" URL: <http://www.abstractcritical.com/article/disciplined-and-polished-orburn-burri-burn/index.html> (参照日: 2018年1月5日)
- Cage, John (1961): *Silence*, Wesleyan University Press.
- Carver, Norman F. (1993) *Form and Space, Japanese Architecture*, Michigan: Documan Press.
- Chipp, H. B., Selz, P., Taylor, J. C. (1984): *Theories of Modern Art: A Source Book by Artists and Critics*, University of California Press.
- Danto, Arthur Coleman (1997): *After the End of Art: Contemporary Art*

- and the Pale of History*, Princeton University Press.
- Dezeuze, Anna (2017): *Almost nothing: Observations on Precarious Practices in Contemporary Art*, Manchester: The Manchester University Press.
- Dillon, Brian (2011): *Ruins*, White Chapel Gallery.
- Dillon, Brian (2006): *In the Dark Room: A Journey in Memory*, England: Penguin Ireland.
- Dyers, Richard: Contemporary Magazines, "PROFILE: AMIKAM TOREN Ceci n' est pas un tableau", URL: <http://www.contemporary-magazines.com/profile50.htm> (参照日: 2018年1月13日)
- Engel, Heino (1985): *Measure and Construction of the Japanese House*, Tuttle Publishing.
- Fontana, Lucio (1946): *Manifesto Blanco*, Galleria Apollinaire.
- Groys, Boris (2008): *Art Power*, The MIT Press.
- Harrison, Charles., Wood, Paul (1992): *Art in Theory 1900-1990*, Blackwell Publishers Ltd.
- Hirschhorn, Thomas (2013): *Critical Laboratory*, Canada: The MIT Press
- Crang, Mike., Thrift, Nigel (2000): *Thinking Space*, Routledge.
- Isozaki, Arata (2006): *Japan-Ness in Architecture*, The MIT Press.
- Hansell, Mike (2009): *Built by Animals*, Oxford University Press.
- Harries, Karsten (2014): *Heidegger's Being and Time*, Yale University.
- Jeffrey, Kastner., Wallis, Brian (1998): *Land and Environmental Art*, London: Phaidon Press.
- Kawamata, Tadashi (2011): *Tokyo in Progress Document*, Bijutsu Shuppan Sha.
- Kaye, Nick (2000): *Site-Specific Art Performance, Place and Documentation*, Routledge.
- Keiller, Patrick (2010): *Robinson in Ruins*[DVD], UK: BFI Video.
- Kelly, Frederick. J. (2007): *The Early Domestic Architecture of Connecticut*, Schiffer Pub Ltd
- Kent, Sarah: Clay Ketter: "Clay Ketter at White Cube" Time Out, London, #1330, 14-21.02 URL http://www.clayketter.com/txt_sk.html (参照日: 2018年1月5日)
- Koren, Leonard (1998): *Wabi-Sabi: For Artists, Designers, Poets & Philosophers*, Stone Bridge Press.
- Koren, Leonard (2016): *Wabi-Sabi: Further Thoughts*, Imperfect Publishing.

- Krauss, Rosalind (1979): *Sculpture in the Expanded Field*, *October*, Vol. 8, The MIT Press.
- Kubler, George (1962): *The shape of time: Remarks on the History of Things*, Yale University Press.
- Leach, Neil (1997): *Rethinking Architecture: A Reader in Cultural Theory*, Routledge.
- Ledford, Daniel L. (2014): *'Psychology of Space': Spatial Architecture of Paul Rudolph*, Yale Divinity School.
- Lefebvre, Henri (1974): *The production of Space* (D. Nicholson-Smith Trans.), Basil Blackwell Ltd.
- Lind, Maria (2013): *Abstraction*, The MIT Press.
- Martin, Agnes (1998): *Writings*, Hatje Cantz Publishers.
- McQuire, Scott (1997): *Visions of Modernity*, University of Melbourne.
- Merewether, Charles (2014): *Future Imaginaries, Contemporary Asian Art and Exhibitions*, ANU Press.
- Miller, Dorothy C. (1959): *Sixteen Americans*, New York: The Museum of Modern Art.
- Munroe, Alexandra (06.01.2013) Alexandramunroe.com, "All the Landscapes: Gutai's World", URL: http://www.alexandramunroe.com/wp-content/uploads/2013/06/01-Gutai.kf_.pdf (参照日: 2018年1月14日)
- Morley, Simon (2010): *The Sublime*, The MIT Press.
- Morris, Robert (1993): *Continuous Project to Altered Daily*, The MIT Press.
- Morris, David (2004): *The Sense of Space*, State University of New York Press.
- Morse, Edward S (1961): *Japanese Homes and Their Surroundings*, Mineora, NY: Dover Publications.
- Norman, Nils (2003): *An Architecture of Play: A Survey of London's Adventure Playgrounds*, Four Corners Books.
- Orozco, Gabriel (1998): *Clinton is Innocent*, Paris-Muse.
- Price, Lucien (2001): *Dialogues of Alfred North Whitehead*, Canada: Nonpareil Book.
- Ray, Gene (2001): *Joseph Beuys: Mapping the Legacy*, D. A. P. /Ringling Museum.

- Rebentisch, Juliane (2012): *Aesthetics of Installation Art*, Sternberg Press.
- Rowles, Sarah (2013): *Art Crits: 20 Questions*, London: Q-Art.
- Saito, Yuriko (2007): *Everyday Aesthetics*, Oxford University Press.
- Searle, Adrian (14.12. 2004): The Guardian, "Will you be needing this?"
URL: <https://www.theguardian.com/culture/2004/dec/14/1> (参照日: 2018年1月13日)
- Shields, Rob (1991): *Places on the Margin*, London: Routledge.
- Sheilds, Rob (2002): *The Virtual*, Routledge.
- Sheilds, Rob (2013): *Spatial Questions Cultural Topologies and Social Spatialisation*, SAGE Publications Ltd.
- Shinoda, Taro., Kuribayashi, Takashi (2010): *Sensing Nature: Rethinking the Japanese Perception of Nature*, MAM Mori Art Museum.
- Smith, Emma (2015): *Practice of Place*, Bedford Press.
- Smithson, Robert (1996): *Robert Smithson: The Collected Writings*, University of California Press.
- Stiles, Kristine (2012): *Theories and Documents of Contemporary Art*, University of California Press.
- Tisdall, Caroline (1979): *Joseph Beuys*, Solomon R. Guggenheim Museum.
- Tuan, Yi-Fu (2001): *Space and Place*, Minneapolis, MN: University of Minnesota Press.
- Turner, Victor W. (1969): *The Ritual Process*, New York: Aldine Publishing Company
- White Cube: "The Unthought Known" URL: http://whitecube.com/exhibitions/the_unthought_known_hoxton_square_2002/ (参照日1月18日)
- Yoshitake, Mika (2012): *Requiem for the Sun: The Art of Mono-ha* (O Dotan Trans.), Blum & Poe.
- 磯崎新 (2003) 『建築における「日本的なもの」』新潮社
- ヴァルター、ベンヤミン (1995) 『ベンヤミン・コレクション(1) 近代の意味』浅井健二郎(編訳)・久保哲司(訳)ちくま学芸文庫
- 川俣正 (2001) 『Book in Progress 川俣正デイリーニュース』INAX出版
- バシュラール、ガストン (1969) 『空間の詩学』岩村行雄(訳)、思潮社
- 義平真心、西村幸夫 (2006) 「東京上野周辺の路上生活者の実態調査一都の住宅支援策に関連して」都市住宅学、J-STAGE URL: https://www.jstage.jst.go.jp/article/uhs1993/2006/55/2006_88/_pdf (参照日: 2018年1月19日)